

地(知)の拠点整備事業 成果報告書

地域交流活動報告書



これまでの取り組みが結実、 「A」評価を得てさらに発展

学長 跡見 裕

杏林大学が進めている「地域交流」は、総合大学としての特長を活かして健康・福祉、地域活性化、防災などさまざまな分野に渡っております。これらの遂行に関しては、2013年に設置した杏林CCRC研究所や地域交流委員会をはじめとした教職員の多大な努力はもとより、それにもまして地域の皆さまの教育・研究活動へのご協力が必要であります。常日頃から、協働していただいている地域関係者、特に東京都三鷹市・八王子市・羽村市の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

これまでの取り組みの成果が結実する形で、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合地の拠点」というテーマで2013年度文部科学省『地（知）の拠点整備事業』に採択され、4年が経過致しました。今回の事業は、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3分野を軸に、本学のこれまでの地域交流活動を、教育・研究・社会貢献の面において全学的に発展させていくものです。これまでの積極的な取り組みの結果、文部科学省による本事業についての『平成28年度評価』の受審において、「A」評価（計画どおりの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。）を受けることができました。

2016年に本学は創立50周年を迎え、三鷹市内に井の頭キャンパスを新設、八王子キャンパスに立地していた3学部が移転いたしました。4学部の距離が近接したことで、全学1年次必修科目「地域と大学」において4学部混成クラスを設置する等の新たな取り組みが生まれています。

本報告書は、「地（知）の拠点整備事業」の成果報告を中心として、平成28年度における本学の地域交流活動の全体像をお示しするものとなっております。できるだけ多くの方にご覧いただき、本学の地域交流活動をご理解いただくとともに、積極的なご意見を本学にお寄せいただければ幸いです。

本学では、今後も地域との特色ある連携に力を入れて参りたいと考えております。なにとぞ本学の活動に引き続きのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



三鷹市長
清原 慶子

井の頭キャンパスの開設とともに強まる 「地（知）」の拠点力

平成28年度は開学50周年を迎えられるとともに、「井の頭キャンパス」が開設された初年度として、杏林大学と三鷹市との「協働」の取り組みによる「地（知）」の拠点力が増した一年となりました。

たとえば、秋に都立井の頭恩賜公園西園で開催され約5万人の来場者で賑わった「三鷹国際交流フェスティバル」では、60人の学生の皆様が運営ボランティアとして活躍され、市立中原小学校で開催した総合防災訓練メイン会場においては教員及び学生の皆様が約600人の参加者に救急救命技能を指導されました。

また、三鷹市の職員は、全学生の必修科目である地域志向型授業に講師として参加するとともに、地域から学ぶという実践学習を通じて、学生と市民との交流が着実に深まっています。

平成29年度は、「地（知）」の拠点整備事業」の最終年度となりますので、この間の取り組みを基礎に、杏林大学の「地域志向型」の活動が三鷹市民・団体等との「協働」によって、「地（知）」の拠点」としての力がさらにパワーアップする年度となることを心から期待しています。



羽村市長
並木 心

仕上げの最終年度を迎え、更に発展を祈念

杏林大学と羽村市との連携事業につきましては、跡見学長をはじめとする大学関係者の皆様にご尽力を賜わり、心より感謝申し上げます。

平成25年度からスタートした「地（知）」の拠点整備事業」では、市民・事業者の皆様を交えた杏林CCRCフォーラムなどに取り組むとともに、平成28年度は連携3市と杏林大学との協働ワークショップを開催するなど新たな取り組みがスタートいたしました。

共通する行政課題の解決に向けて、自治体の枠を超えて、多くの方々に関わり、杏林大学の教員や学生の皆様を交え様々な検討や議論を行うこうした取り組みは、大きな意義を持つものであると感じております。

「地（知）」の拠点整備事業」の仕上げを行う最終年度を迎えるにあたり、このような取り組みがスタートしたことに、杏林大学並びに連携自治体の皆様に、深く感謝するとともに、貴学が地域の「地（知）」の拠点」として、更に発展されますことをご祈念申し上げます。



八王子市長
石森 孝志

地域と杏林大学との強力なパートナーシップを期待

平成25年度に採択された「地（知）」の拠点整備事業」を通じて、杏林大学が八王子市及び三鷹市、羽村市と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献の取り組みを進められていることに、深く敬意を表します。

平成28年度は、八王子学生委員会主催の「八王子地域合同学園祭」への参加をはじめ、保健学部による「全関東八王子夢街道駅伝競走大会」での救急ボランティア活動や、高齢者の健康増進に向けた「健幸教室」の実施など、学部の特徴を活かした様々な地域交流活動に取り組まれたことに深く感謝を申し上げます。このような活動を全学的に発展していただくことで、貴学と連携する自治体とのパートナーシップがより強力なものとなるよう期待しております。

今後も、「生きがい創出」、「健康寿命延伸」、「災害に備える街づくり」の3分野を軸とした、地域との協働による課題解決を通して、この事業が大学と地域がともに発展していく礎となることを祈念しております。



地域交流推進室 室長
古本 泰之

井の頭キャンパスへの移転を受けて、 教育面のブラッシュアップを推進

本学は、2013年度『地（知）の拠点整備事業』において「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」というテーマで採択され、2016年度で4年目を迎えました。これまでの各種事業の実施は、本事業の連携パートナーである東京都三鷹市・八王子市・羽村市の地域の皆様のご協力無しでは成立することではなく、心より感謝申し上げます。

2016年度は、井の頭キャンパスへの移転を受けて、1年次全学必修科目『地域と大学』において4学部混成講義を設置するなど教育面でのブラッシュアップを進めました。また、「生きがいづくりコーディネーター」講座を引き続き開講し、17名の地域の方々とともに地域課題の解決に取り組む機会を設けました。また、学生がボランティアとして参加する機会も増加し、教育活動との連動が積極的に展開されています。

本報告書をご一読いただき、本学へのさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



杏林CCRC研究所 所長
蒲生 忍

杏林CCRC研究所の取り組みについて

超高齢化する首都圏は多くの地域課題に直面しています。本学の知的資源を動員してその課題の解決に取り組み、包括的な地域連携を推進する拠点となることを目的に杏林CCRC研究所は設置されました。その活動の一つとして平成28年度は、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に関連する26回の公開講演会を学内の協力を得て実施し、多数の市民の皆様に参加していただきました。

また、研究所では「持続可能な都市型高齢社会の未来像」をテーマに独自の研究活動を展開し、また研究費を配布することで本学の地域を志向する研究活動の支援を行いました。その他にも連続講座の開催やセミナー等を介して連携市の市民の皆様との積極的な対話を試みています。これらの成果は杏林CCRC研究所紀要に公開発表しました。平成29年度はCOC事業も最終年度を迎えます。今までの取り組みの結実を目指し焦点を絞った活動を進めたいと考えています。



地域・大学間コーディネーター
井上 晶子

量・質ともに客観的に評価し、COC事業の継続性を担保

28年度は、保健学部、総合政策学部、外国語学部が三鷹キャンパスに移転し、これまでの社会貢献事業の進化・深化に加え、新しい地への「種まき作業」が必要となりました。

移転早々、当事業の周知を目的として開催したワークショップの反響は大きく、杏林大学の持つ多様な資源を、地域の資源として、新たな地域活動創造に取り組んでいきたいと、地域の諸団体・組織から多くのニーズが寄せられました。続いて、杏林大学と企業が連携協定を締結し、「杏林大学+企業」による「まちの活性化」に取り組む多種のプロジェクトを立ち上げました。一つの企業との連携が多様な企業との連携へと広がり、学生や教員の活動のジャンルも多岐に渡るものとなっております。「地域と大学」「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の成果も目に見える形となってきています。

最終年の課題は、これら成果（マイナス面も含めて）を量的、質的両側面から客観的に評価し、対応策を講じることで、COC事業の継続性を担保していかなければなりません。

COC事業の成果が学生の成長に反映され、地域に反映されていくには、大学組織としての継続性のある活動が求められています。

「地（知）の拠点整備事業」成果報告書 目次

ごあいさつ

3

学 長	跡見 裕
三 鷹 市 長	清原 慶子
羽 村 市 長	並木 心
八王子市長	石森 孝志
地域交流推進室 室長	古本 泰之
杏林CCRC研究所 所長	蒲生 忍
地域・大学間コーディネーター	井上 晶子

平成28年度実績報告書概要

平成28年度 事業の実績報告と具体的な成果	8
平成28年度 杏林CCRC拠点推進委員会 開催記録	15

補助事業 成果報告

教 育

1 教 育 ①	18
必修授業「地域と大学」で地域の課題を学ぶ	
2 教 育 ②	19
平成28年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の開講	

研 究

3 研 究 ①	20
杏林CCRC研究所セミナー報告	
4 研 究 ②	20
杏林CCRC研究所コモンズ開催報告	
5 研 究 ③	21
地域志向教育研究費について	

社会貢献活動

6 社会貢献活動 健康寿命延伸 ①	22
市民と専門職で考える参加型ワークショップ	
7 社会貢献活動 健康寿命延伸 ②	23
「生涯スポーツの機会提供」プログラム	
8 社会貢献活動 健康寿命延伸 ③	24
三鷹市における健幸教室の開催	
9 社会貢献活動 生きがい創出 ①	24
極低出生体重児親の会ぴあんずにおける育児支援	
10 社会貢献活動 生きがい創出 ②	25
多胎育児支援活動	

11 社会貢献活動 災害に備えるまちづくり ①	26
BLS指導による実践的な災害対応能力の向上	

全 体

12 全 体 ①	28
「地域連携ワークショップ まちづくりに『新しい風』を」を開催	
13 全 体 ②	29
第4回杏林CCRCラウンドテーブル・第5回杏林CCRCフォーラムと 連携3市との協働ワークショップを開催	
14 全 体 ③	30
連携市での様々な活動	
15 全 体 ④	32
平成28年度 FD・SD研修会を開催	
16 全 体 ⑤	32
杏林大学 地（知）の拠点整備事業 平成27年度事業にかかる第三者評価報告書	

出張報告 | 国内

① 「生涯活躍のまち・いすも」と島根大学医学部附属病院の 視察と意見交換のための出張	34
② 「オークフィールド八幡平」での意見交換・居住の課題に ついての資料収集と、岩手大学・岩手県立大学との意見交換	34
③ 平成28年度 FD・SD研修会 打ち合わせ	35
④ 全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+ 全国シンポジウム「地方創生と大学」への出席	35

公開講演会・公開講座	37
------------	----

COC+ 実務報告

COC+ 実務報告 ①	39
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」について	
COC+ 実務報告 ②	40
COC+ 事業における杏林大学の取り組み（平成28年度）	



平成28年度実績報告書概要

平成28年度 事業の実績報告と具体的な成果

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(1) 4月 3自治体との協力に基づく「地域と大学」科目ならびにPBL型科目として位置づけている「プロジェクト演習科目」の継続開講	
昨年度に引き続き、平成28年度前期に1年生必修科目「地域と大学」を開講した。3自治体と連携し、学生の学ばせたい地域課題に基づいて授業内容の打ち合わせ、各市職員による講師派遣を行った。今年度は、全学部において「地域と大学」科目の設置が完了したこと、平成28年4月の井の頭キャンパス設置をにより、4学部の立地が近接したことを受けて、より特徴ある地域志向科目とすべく、4学部混成クラスの回を設け、本学の特徴・地域の現状・PBL型授業を受講するための基礎的な技法等を学ぶ場と位置付けた。合わせて、大学COC+事業として岩手県で展開されている「ふるさといわて創造プロジェクト」への参加校としての接続を学生に意識させるため、文系学部の学生を対象として、同プロジェクトのコーディネーターである岩手大学・小野寺純治特任教授による講義の回を設けた。 ※詳細はP18参照 全学的に地域志向科目の充実を図り、それを受ける形で外国語学部・総合政策学部を中心に「プロジェクト演習系科目」を継続的に開講した。外国語学部では、学生をグループ分けした上で、地域課題を特定するための文献資料調査、課題の詳細を把握するためのフィールドワーク、「地域と大学」を踏まえたグループディスカッション、解決策の提示までの一連の流れを、連携3自治体の協力の下で1年間をかけて実施し、観光交流文化学科においては取り組み成果について冊子として取りまとめて連携自治体関係者に報告した。なお、これらの科目や関連する打ち合わせにおいては、本事業で設置したPBL教室を積極的に供用した。	これらの結果、1年次全学生1,226人（医学部121名、保健学部591名、総合政策学部250名、外国語学部264名）に対して「地域と大学との関わり」について学ぶ機会を提供し、平成26年度から合わせて3,395名が本学独自の地域志向教育の基礎を学んだ。授業に関するアンケート調査を行ったところ、94.8%が連携自治体の現状・課題を把握したと回答したとともに、85.6%が問題解決力が身についたと回答しており、今後の地域志向教育に対する意識付けおよび初年次教育における課題解決力、特にファシリテーション力の向上につながった。なお、回答者の71.9%が継続した地域活動を希望しており、今後の本学の地域志向化拡大の契機ともなった。また上述の通り、井の頭キャンパスの設置を受けて「地域と大学」の内容改編を行ったことを受けて、4学部の学生・教員間での意見交換や教育成果の共有が進んだことを受けて、教員の地域志向化の一助ともなった。 本学ではこのPBL型地域志向科目を通じて、どのような環境でも「答えのない問題」に最善解を導くことができる能力である「問題解決力」の向上することを企図しており、それを構成する問題発見力・問題解決発想力・ファシリテーション力を、「地域と大学」と合わせて涵養することができた。この学びを元にゼミナールなど3年次以降の専門教育において、科目の地域志向化を促進することで、本学の地域志向教育のモデルを最終年度において構築していく。 また、社会貢献活動を含めた課外活動の活発化によって、地域課題の「現場」を知る機会、合わせて発表会の実施を通じて成果を地域に還元し地域関係者と議論する場が増加し、教室内での学びの実質化がはかれた。 今後は、今年度の「地域と大学」を受けて、文系学部科目において岩手県を意識させた講義内容を増加させていくことを検討している。
(2) 4月 4学部科目の「地域志向」強化（地域関係者の講師招聘など）	
総合政策学部「学際演習」や、外国語学部「ゼミナール」など既存科目の内容を検討し、地域志向科目を平成27年度の91科目から99科目に増加させ、延べ6,823名が履修した。また、3自治体との協力に基づき、「地域と大学」等の授業において、延べ19名の連携市職員を講師や評価者として招聘した。	事業採択後の3か年を経過し、新たに設定した「地域と大学」に関する科目を1年次に受講した学生が3学年分となり、増加した地域志向科目と合わせて地域課題をテーマとした「問題解決力」の涵養に繋がる科目を履修することが可能となった。合わせて、教育的効果を企図した研究・社会貢献活動（救急救命を学ぶ学生が防災イベントのサポートを消防署と連携して行う、3連携自治体の選挙管理委員会と連動した若年層の投票促進活動、地域のにぎわい創出イベントへ参加する等）に学生たちが積極的に参加する場をさらに増やすことで、現場での体験を通じた学びの実質化を進めた。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(3) 4月～3月 地域志向教育研究経費の交付、活動（知の創造）	
平成28年度地域志向教育研究の公募に際し7件の応募があり、「超高齢・多死社会における死生学教育ツールの開発」他4件を採択し最大50万円の研究費を交付した。平成28年5月より研究活動に着手し、以降地域志向教育研究費による研究が各担当者により実施された。地域志向教育研究5件の成果は紀要に「論文」（2編）または「報告」（3編）として掲載した。 これに加え過年度の地域志向教育研究の継続6件と自主的財源等による5件の地域を志向した教育研究活動が実施された。過年度助成によるものは、保健学部楠田らによる「大学生と当事者の連携による発達障害児の余暇活動支援の成果と今後の課題」等である。自主的財源等によるものは、研究所副所長長島（医学部准教授）が「みたか都市創造サロン」に参加して「がんを背景に持ち多様な病態をもつ患者の食に関する情報提供」、兼任研究員下島（保健学部准教授）の「地域で取り組むインクルーシブ教育」、医学部金城の「三鷹市における尿失禁、骨盤臓器脱を伴う女性骨盤底障害の実態と意識調査」等である。 平成29年1月から2月に地域志向教育研究費による研究成果の取りまとめに向けた報告を研究所セミナーとして開催し、申請テーマに沿った研究活動が適切に推進され成果をあげつつあることを確認した。 ※詳細はP21参照	平成28年度に地域志向教育研究として本事業より経費を配分したものの5件、過年度に経費配分した研究や自主財源による研究等11件、全体としては16件に達し、関与した教職員数は46名（延べ50名）である。地域志向教育研究経費は継続2年と限定し不採択とせざるを得ない応募もあったが、本事業終了後の継続を念頭に地域の団体等との協働や活動資源の確保が着実に進行している。多くの学生がこのような活動に積極的に研究の補助者やボランティアとして参加すること、それにより地域の抱える課題に学生自身も直面すること、その解決に向けた研究の重要性を体感することが定着しつつある。
(4) 4月～3月 平成27年度の検討に基づく学際的研究活動の実施（知の創造）	
平成28年4月、保健学部照屋浩司教授、同下島裕美准教授を兼任研究員とし保健学系との研究活動の連携強化を図った。同日、研究所特任助教より総合政策学部に移動した松井孝太講師を兼任研究員とし、総合政策学部・外国語学部における地域研究活動の中核とした。平成28年5月に杏林CCRC研究所を三鷹キャンパス内看護医学教育棟に移動した。 7月、医学部腫瘍内科学長島文夫准教授を高年齢医療に関する研究機能の強化のため新たに副所長として迎え、三鷹市のまちづくりへの貢献を目指す「みたか都市創造サロン」のメンバーとして参加させた。また、長島副所長の研究活動等を補佐するため10月に国立がん研究センターがん臨床研究機構の水谷友紀部長を客員研究員に迎えた。 研究所が主導した地域志向教育研究「超高齢・多死社会における死生学教育ツールの開発」では、その一部として所長蒲生と兼任研究員下島が三鷹ネットワーク大学で連続講座「はじめての死生学」「日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学」を実施した。また岩手県八幡平市の日本版CCRCの先進事例において、公共交通機関や厳冬期の生活等の実地調査を行い、随時ホームページに出張報告を掲載すると共に、紀要に詳細な報告を掲載した。 研究所は地域社会維持の鍵を握る高齢女性の活躍促進を目的に医学部泌尿器科学金城真実医員の「三鷹市における尿失禁、骨盤臓器脱を伴う女性骨盤底障害に関する調査研究」活動を支援した。 研究所ではその研究活動を推進し成果を検証するためのセミナー（5回）、研究所の成果を提供する講義提供（2回）、研究成果の市民への普及と意見交換の場-研究所コモンズ（2回）等を実施した。	本学のCOC事業は都市型高齢社会での「健康寿命延伸」と「生きがい創出」により医療・介護需要の増加に対応すること、また「災害に備えるまちづくり」で弱者としての高齢者の安全に配慮することを含意している。この事業構想に基づく地域志向教育研究活動により、本学の教職員の地域との直接的な関わりが増加し、また問題意識が向上し積極的な地域課題へのかかわりが促進されている。 医学部リハビリテーション医学山田准教授の地域志向教育研究は地域のプロジェクトの協力を得て実施された。医学部整形外科の市村は地域志向教育研究の一環として三鷹市老人クラブ連合会とのロコモティブシンドロームに関する協働事業を実施した。この事業は平成29年度に三鷹市との協働事業に発展が決定した。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(5) 4月～3月 三鷹ネットワーク大学での生涯学習連続講座等の実施（知の普及）	
平成28年9月～12月に三鷹ネットワーク大学で四回連続の研究講座を3回実施した。「日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学」（第1回9月9日、23日、10月14日、28日、第2回11月4日、18日、12月2日、16日）の講座にはそれぞれ延べ52名、61名の市民の参加があり、「はじめての死生学」（11月4日、18日、12月2日、16日）の講座は延べ63名の市民参加があった。これに加え研究所セミナー、コモンズ、その他等9回を開催した。 平成28年4月に保健学部、総合政策学部、外国語学部が八王子市から三鷹市井の頭キャンパスに移転し、これに伴い本学の開催する公開講演会の会場として井の頭キャンパスが加わった。平成28年度に公開講演会を5月7日の杏林医学会・三鷹ネットワーク大学との共催の「糖尿病から身を守る（医学部石田均教授）」講演会から始まり、2月18日羽村市での「働き盛り世代のこころの健康づくり（保健学部大瀧純一教授）」まで26回を企画開催した。このうち21回が医療系の話題を取上げたCOC事業の健康寿命延伸にかかわるものである。26回の講演会では重複を含め医学部教員23名、保健学部2名、総合政策学部3名、外国語学部2名付属病院職員2名、学外の本学関係者3名の先生方にご協力いただき、合計35名が講演等を担当した。開催場所はCOC事業で連携する三鷹ネットワーク大学で6回と本学三鷹キャンパス8回、井の頭キャンパス5回、八王子市4回、羽村市3回である。 これに加えて、地域志向教育研究関連の講演会、その他の公開講演会30回が実施され、延べ46名が講演等を担当した。 ※詳細はP37～38参照	今年は、新たな井の頭キャンパスで杏林大学公開講演会が5回開催され、多くの市民が聴講に訪れた。受講した市民の数は昨年度の1,245名（19回）から1,705名（未集計5回を除き21回）と大幅な増加となった。井の頭キャンパスでの講演会の開催は土曜日の午後で、講演会参加の多くの市民が学生に混じり食堂での飲食や雑談を楽しんでおり、新キャンパスがより一層の大学知の公開と地域との交流契機となることが期待された。
(6) 4月～3月 日本版CCRCを含めた地方創生への協力（知の実践）	
日本版CCRCとICT医療連携研究のため5月29・30日に島根県出雲市「生涯学習のまち・いずもコンソーシアム」と島根大学医学部へ、日本版CCRCの先進事例であるオークフィールド八幡平へ6月26～27日、11月6～8日、平成29年1月31日～2月2日に3回出張し、都市から地方への移住の現状と問題点などを体験的に継続して調査し、その報告を随時ホームページで公開すると共に、それぞれ紀要に報告を掲載した。 ※詳細はP34参照	日本版CCRC「生涯活躍のまち」構想の実現には、本学COC事業の具体的なテーマである医療や介護との連携による「健康寿命の延伸」と「生きがいつくり創出」の実現が不可欠である。地方を継続的に体験することでその実情と問題点をより正確に理解することができ、来年度の本学の多様な教育資源と学生の参加も含めた協働の基盤が形成された。
(7) 2月～3月 杏林コモンズ・杏林CCRCラウンドテーブルでの議論を基に平成29年度の研究活動内容を立案（知の創造）	
平成29年度はCOC事業として最終年度を迎えるため、連携三市を含めた研究活動の体制を維持強化する必要がある。そのため、平成28年度より対応を検討する委員会を設置し議論した。 平成28年度の八王子キャンパスから井の頭キャンパスへの教育研究資源の移転に伴い、企画していた研究活動、啓発活動等に混乱も危惧したが、順調に推移し予想を大幅に超える市民との協働による研究活動や広報活動を実施できた。この経験に基づき連携三市の要望に寄与できるよう継続的な研究活動と啓発活動を実施することとした。 啓発活動等では多くの市民の要望に対応する企画に加え、専門外来や技術を有する大学医学部・保健学部として少数でもきめ細かい対応を行う企画や連携市のみならず隣接する地域を対象とする企画も実施することを検討する。	本学は都市圏に位置し、大学の主要キャンパスが立地する三鷹市のみならず隣接する多くの地域の期待を担っており、それに対応する必要がある。研究や啓発活動においては連携三市を核として隣接する地域へも協働と連携が広まることが期待されている。さらに学生の地域での活動等に際しても連携三市との協定や協働等が基準となり、今後より広い範囲との協働が可能となる。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(8) 3月 杏林CCRC研究所紀要発刊（知の普及）	
平成28年の研究所の研究成果を広く公開する4編の論文（うち2編は地域志向教育研究論文）、研究所のその他の活動に関する11件の報告、3件の地域志向教育研究報告からなる「平成28年度杏林大学杏林CCRC研究所紀要」（136頁）を平成29年3月に発行し、連携三自治体とその関係機関、教育機関、医療機関を中心に配布した。また平成29年5月以降にはホームページ上にも掲載する予定である。	紀要に所収した論文「高齢社会における死生学」において、これからの超高齢社会において医療人材に対する死生学教育の重要性を指摘している。医学部と保健学部では各資格試験受験に関する必修科目が大半を占め新規科目の導入には困難を伴うが、今後の多死社会での医療と介護を担う人材の教育には不可欠な要素であることを示唆している。 大学での学生教育と地域の学校教育、障がい児教育との接点に関する論文も投稿収録されており、教育面での幅広い連携の実現が示されている。
(9) 4月～3月 「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に係るプロジェクトの企画・実施	
「生きがい創出」を目的とした「子育て支援プログラム」はいくつかのプログラムに細分化されて実施されている。「多摩多胎ネットワーク」では、主に三鷹市を対象として多胎児を妊娠中の家族への情報提供と妊娠出産に関する不安を減らし、育児の準備を整えることを目的とする多胎育児準備教室の開催、ピアサポーター養成講座とピアサポーター訪問事業の実施、多胎児の親の会「ツインズマーケット」の開催などを行った。本活動において市民は延べ保護者121名、子ども90名、学生は50名の参加があった。極低出生体重児の育児支援サークル「びあんず」ではフリートークや専門家を招いての学習活動、小児科医・看護師による医療相談などを行った。本プログラムは、平成28年5月21日、7月9日、10月29日、平成29年2月25日の4回実施され、保護者は延べ60名、子ども52名、学生54名の参加があった。保護者が幼児に性教育を行うための支援である「いのちのおはなし会」ではいのちのはじまり（受精）から胎児の発育～出産までの様子を胎児人形と学生の寸劇で説明した。身体を守ることにについては、パネルで男女の子どもの身体を示し、違いを確認したうえでプライベートゾーンを自分で守ることを説明した。本プログラムは2回実施され、保護者は延べ8名、子ども44名、学生8名の参加があった。 「健康寿命延伸」を目的とした「生涯スポーツ提供プログラム」では、平成26年6月から主に羽村市民を対象にプログラムを開始した。本年度のプログラムは12回実施され、体力測定や運動相談・指導のプログラムを7回実施した。また多様な運動種目を体験する中で、個々に持続可能な運動を見つけることと、心拍計を用いた心拍数コントロールによる適正運動負荷量の習得を目的とし、ボールウォーキングやノルディックウォーキングなどを紹介・体験する「歩こう会」や「歩き方教室」を実施した。歩き方教室ではウォーキングの紹介・体験にとどまらず、歩く際の姿勢など意識すべきポイントや靴の選び方等を交えてレクチャーを行った。また、羽村市健康フェアや健康の日にブースを設置し、体力測定と健康相談をおこなった。本活動において市民は延べ204名の参加、学生は延べ40名の参加があった。 「災害に備えるまちづくり」を目的とした「救命講習（AED講習）」は、学生を指導者とした救命講習を2回実施した。指導対象は、羽村市の中学生約520名と三鷹市の一般市民であった。また、平成28年11月6日に三鷹市の市民約800名が参加した総合防災訓練において学生15名がBLS指導を実施した。さらに平成28年11月20日の「三鷹市市民駅伝」及び平成29年2月12日の「全関東八王子夢街道駅伝競走大会」において、AED担当及び救護所担当として学生と教員が任務にあたり、駅伝競走参加者の安全の確保が図ることができ大会成功の一助となることができた。 ※詳細はP22～27参照	「多摩多胎ネットワーク」では、多胎育児中の保護者が育児情報を得ると同時にそれぞれの悩みを共有する場を、極低出生体重児の育児サークル「びあんず」では、医師や看護師、リハビリテーション専門スタッフが子どもの発達を支え、親が育児からいったん離れて自らのために使う時間を得ることができる憩いの場を、幼児に性教育を行う「いのちのおはなし会」では、早期から性教育を行う必要性を保護者に理解してもらうこと、子ども達に命の大切さを理解する場を構築した。現代の都市型高齢社会における希薄な人間関係の中での孤立した育児は、子育て中のすべての保護者にとって大きな課題となっており、これらの活動は、地域で安心して悩みを相談できる場や人、様々な年代の人々の交流の場の創出による人と人との「つながり」を形成することにより、子育て中の家族を中心とした市民の安心・安全に資することとなった。このことから本補助事業の目的である「杏林CCRC構想」の構築に一定の前進が見られたといえる。合わせて、この取り組みに参加した学生は、実際に子どもと接することにより発達段階を具体的に理解し、実際の子育て家庭に接して地域における多胎子育て・極低出生体重児育児の大変さを学ぶことができた。さらに地域で行われる教育の有効性とその効果的な方法などを学び、地域課題の現場に出なければ理解できない体験を通じた学びの重要性を実感することができた。 「健康寿命延伸」を目的とした「生涯スポーツ提供プログラム」は開始からはや3年が経過したが、プログラムを通じて住民の方々が運動の重要性を理解し、楽しみながら運動を継続することで自らの健康は自らが作る、という意識が浸透してきていることを実感している。運動相談の際には運動が重要なことは分かるが何をしたらいいのかわからない、運動の事について誰に相談していいかわからない、などのご意見を市民から頂戴するが、これらの声はまさに現在の地域活動の課題であるといえ、日常の健康や運動に対する不安を相談できる環境を整備する必要性を切に感じるとともに、私共の活動は自らが作る、という意識が浸透してきていることを実感している。運動相談の際には運動が重要なことは分かるが何をしたらいいのかわからない、運動の事について誰に相談していいかわからない、などのご意見を市民から頂戴するが、これらの声はまさに現在の地域活動の課題であるといえ、日常の健康や運動に対する不安を相談できる環境を整備する必要性を切に感じるとともに、私共の活動は自らが作る、という意識が浸透してきていることを実感している。本プログラムでは体力測定の結果に応じた運動の提案・指導を実施しているが、一度きりにとどまらず再評価を実施し、その都度適切なアドバイスを提供している。幸いなことにプログラムの参加率、再参加率は高く、本プログラムに参加したことで日常生活に運動を取り入れ、継続するきっかけとなったという事例は多い。 また、本プログラムは、学生がボランティアとして参加をしている。学生は主に看護学科、理学療法学科の学生達であり、彼等の多くは病院・施設での専門性の活かし方は学んでいても、地域のなかでどのようにそれぞれの専門性を活かすのかという点では、今ひとつ理解が不十分である。本プログラムに参加することで、地域活動の重要性とその背景、専門性を活かしかつ具体的などのように地域に貢献できるのかを学ぶ絶好の機会となっている。 「災害に備えるまちづくり」を目的とした「救急救命活動」では、学生が中学生へのBLS指導やマラソン大会の救護所担当を担い、若い人から高齢の方まで様々な年代の方と触れあうことでコミュニケーション力を磨くことにつながった。また、三鷹市の総合防災訓練ではBLS指導を通して自助、共助という観点から減災の意識を継続して持ち続けることの重要性について多くの市民に訴えることができた。これらの活動は、学生自身の防災に対する意識と技能の向上とともに、市民の地域防災力を高めるきっかけとなった。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(10) 4月～3月 公開講演会の内容を本事業の趣旨に基づいた形で拡充し、連携自治体において実施	
本学広報・企画調査室、杏林CCRC研究所、地域交流課との共同で、連携自治体である三鷹市で16回、羽村市で3回、八王子市で2回、合計21回、本補助事業のテーマである「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に関する公開講演会を行った。公開講演会には延べ1,705名の参加があった（昨年比460名増）。27年度から引き続き28年度は9月から12月にかけて連続講座を企画し開催した。延べ176名の市民が参加した。	羽村市で行っていた商店街活性化の取り組みが、三鷹市に派生して「三鷹まち歩きマップ」の作成につながる等、杏林CCRCラウンドテーブル・杏林 commons の場においての自治体・団体間での取り組み情報の共有が、新たな取り組みを生み出す契機となった。 なお、過去に杏林 commons において提案のあった地域の外国人に対する日本語教育については平成28年度も引き続き実施されており、継続した取り組みとして定着したといえる。 平成28年度の講演会会場はアクセスが容易であり、また三鷹市井の頭キャンパス移転を踏まえて三鷹ネットワーク大学を中心に開講した。その内容は杏林大学の知的資源を積極的に活用、また昨年度受講者のアンケート調査に基づいたニーズに沿ったものとした。そのため日常生活の健康やグローバル化、ライフスタイルなど、市民へ有益な情報提供を行うことができた。
(11) 4月～3月 生きがいづくりコーディネーター認定に係るウェルネス科目群の本格実施	
保健学部・総合政策学部・外国語学部で井の頭キャンパスにて開講している科目のうち、本補助事業のテーマである「生きがい創出」「災害に備えるまちづくり」を軸に、それに関連した講義・演習科目を組み合わせ、「生きがいづくりコーディネーター養成講座」を開講した。この講座は市民・学生を対象とした教育プログラムであり、昨年に引き続き、本補助事業連携自治体の在住・在勤者に対しては履修料を無料とし、市民の積極的な受講を促した。その結果、三鷹市在住の17名の受講者を得て、平成29年3月18日に14名に修了書を授与した。	修了者には今後本学の教育（授業での講演など）・社会貢献活動（健康寿命延伸の取組）に関わっていただくことを予定している。地域と大学とのより密接な連携関係の構築に加え、学生の学びの充実を図る準備が整った。そのために連携自治体との継続的な協議を行っている。
(12) 12月～3月 平成29年度ウェルネス科目実施に向けた検討、杏林CCRCラウンドテーブル等におけるテーマ調査	
平成28年度は、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」のテーマに即した「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の募集を行い開講した。平成29年2月には第4回杏林CCRCラウンドテーブルにおいて、受講者数の増加、有益な科目の検討などを実施した。	このプログラムは、運用およびテーマについて本学のみならず連携自治体との継続的な検討を行ってきた成果である。平成28年度杏林CCRCラウンドテーブル（平成29年2月18日開催）の場において、各市から既存プログラムの有効性と、市民のニーズに沿ったプログラム構築への要望に対する発言があった。そのため更なる地域の課題に寄り添ったプログラムの構築が期待される。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(13) 4月～3月 杏林CCRC拠点推進委員会の隔月開催、内部評価の実施、3市と具体的連携協議 本補助事業の最高意思決定機関である杏林CCRC拠点推進委員会（委員長：学長）は、平成28年4月18日に第1回を開催し、以降、平成28年度中に全11回の会議を行った。人事・活動計画などについての審議を行い、進捗状態の管理を行った。また、杏林CCRC拠点推進委員会の承認の下、平成30年度以降の本事業の継続発展の方策を検討する会議体を発足し、協議を開始した。 連携自治体3市とは、以下の通りに行った。 ①八王子市：担当者間の打ち合わせに加え、大学コンソーシアム八王子の各部会、あるいはプロジェクトごとの会議を通じて複数回の議論を行った。 ②三鷹市：担当者間の打ち合わせに加え、平成28年10月21日、平成29年2月20日に連携事業の全体像を確認する会議を持った。 ③羽村市：担当者間の打ち合わせに加え、平成28年4月25日・11月2日に連携協議会を実施し、連携の全体像の確認を行った。 杏林CCRC拠点推進委員会は平成28年度中に11回開催し、本事業のコンセプトである杏林CCRC構想を円滑に推進するためのPDCAサイクルのみならず、従来の地域交流活動を総括連携するシステム、CCRCに関するさまざまな知見が報告される場として機能した。その中から、平成30年度以降の本事業の継続発展について議論する会議体も生まれた。合わせて、上述した「地域と大学」の改編等学部の壁を越えた取組の可能性について活発に議論を行うことができた。 連携自治体3市とは日常的に密接な連絡関係を取っており、それらの中から、三鷹市防災訓練における保健学部学生による「BLS体験訓練コーナー」の企画運営や市民のニーズに合わせた公開講演会の企画実施等、新たな地域志向活動が創出されている。	杏林CCRC拠点推進委員会は平成28年度中に11回開催し、本事業のコンセプトである杏林CCRC構想を円滑に推進するためのPDCAサイクルのみならず、従来の地域交流活動を総括連携するシステム、CCRCに関するさまざまな知見が報告される場として機能した。合わせて、井の頭キャンパス設置に伴う学部の壁を越えた取組の可能性について活発に議論を行うことができた。 連携自治体3市とは日常的に密接な連絡関係を取っており、それらの中から、連携3市と継続的に協議を重ねている「防災」に焦点をあて、連携市内モデル地域での災害弱者に対する大学・行政・地域の役割と連携の実践化に向けた活動や、八王子市内の活動で好評であった平岡町健康教室を発展的継承すべく、三鷹健康体操の会と形を変え、新たな活動として創出している。参加者の満足度が非常に高く、29年度へ向けた活動計画を構築している。
(14) 4月～3月 本事業内容の学内外での周知徹底（FD・SD講演会の実施時期検討）、ウェブサイトでの事業情報公開（随時発信）、第5回杏林CCRCフォーラム（三鷹市）の実施 本事業の学内外での周知徹底を行うため、以下の活動を行った。 ①事業成果報告書・地域交流活動報告書、杏林CCRC研究所紀要の発行・配付に加え、「地域交流活動かわら版」（平成26年度のFD・SDワークショップの結果を受けて発行開始、平成28年度は10回発行）「全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム「地方創生と大学」」におけるポスターセッション参加、本学主催「地域連携ワークショップーまちづくりに「新しい風」を」（於井の頭キャンパス）等さまざまな機会において本学の取り組みを紹介し、学内外への周知を行った。 ②全学FD・SD講演会の実施 全学FD・SD講演会を、岩手大学との連携に基づいて平成29年3月8日に実施し、4学部の教員および職員合わせて127名が参加した。「岩手と杏林大学が連携して創造できること」と題し、大学COC事業の新たな展開として、大学COC+事業において岩手と連携することになったことを学内において理解してもらい、それぞれの取組を岩手で展開できる可能性について考える機会とした。 ※詳細はP32参照 ③地（知）の拠点整備事業のウェブサイトでは、「最新ニュース」欄では地域貢献活動やシンポジウム等への参加報告等を掲載し、事業の進捗状態を報告した。また「イベント」欄では「フォーラム」や「研究所セミナー」「講演会」等に関する予告と報告他を掲載したことにより、市民や本学の取組に興味を持つ方々からの問合せを受けた。特設サイトへのアクセス数は開設以来平成29年3月末までは48,176件、一日平均アクセス数は約37.9件であった。 ④平成29年2月18日（土）に「第5回杏林CCRCフォーラム」を井の頭キャンパスにて実施した。昨年度の第4回杏林CCRCフォーラムでの連携自治体・団体関係者からの意見を受け、今年度は学生が取り組んできた各種プロジェクトや授業の成果の報告を中心に内容を構成した。あわせて、日本文体論学会、社会言語科学会の協賛を行い、本学教職員の取り組みに対する意見交換を行った。	実績①～③についての成果を以下にまとめる。 ①本補助事業の成果をさまざまな角度から紹介することが可能となり、学内外において本学の取組の趣旨・成果についての周知徹底を図ることができた。 ②・③本補助事業の趣旨である「地域のための大学」についての周知徹底及び教育・研究・社会貢献活動の情報提供とその共有を通じて、教職員の意識改善が進んだ。全学FD・SD研修会は、大学COC+事業の理解と自身の取組可能性を考える機会となり、終了後のアンケートでは82.7%が肯定的な評価を回答し、「具体的な内容で何かができそうな気持ちになった」「地域の取り組みが分かり良かった」「本学として取り組んでいることを具体的に知る機会は貴重だと感じた」といった意見が見られた。 ④連携自治体・団体等の関係者からは、学生達の取組の成果や発表内容について好意的な意見が寄せられ、事業の継続を推進していくきっかけとなった。また、事後のアンケートでは学生教育に対する意見も寄せられており、今後の教育の地域志向化において参考となった。

事業の実績	事業に係る具体的な成果
(15) 4月 本事業に関する各種アンケートの実施	
文部科学省からの指示設問に独自設問を加えた平成27年度本補助事業の取組に関するアンケートを作成し、平成28年3月～4月にかけて本学の全学生・全教職員（看護職、技術職を除く）・連携自治体の責任者に対して実施した。学生の回収率は48.7%、教職員の回収率は80.1%、自治体の回収率は100%であった。	過去3年間の取り組みを通じて、教職員の本事業に対する認知度は82.5%と引き続き高い状態となっており、告知活動の成果が見られた。ただ、新たな活動への参加意志も高い一方で、個別具体的な活動への認知度を高める必要性が明らかになった。 また、学生においては教員からの情報提供が地域への関心の高まりや活動への参加意思に大きく影響していることがあきらかになり、地域志向科目と学外での活動とを連動させていく必要性が改めて明らかになった。連携3自治体の満足度は高い状況にある。
(16) 4月～9月 事業年次報告書の作成、外部有識者からなる第3者評価機関の点検・改善を実施	
平成28年7月に、本事業を含めた本学の地域交流活動全般における平成27年度の取組をまとめた「平成27年度 地域交流活動報告書・地（知）の拠点整備事業成果報告書」を発行し、大学等関係団体等へ約800部を郵送するとともに、学内での普及活動に用いた。この報告書は平成28年7月12日にウェブサイト公表した。 また、平成28年9月9日に第三者評価委員会を開催し、平成27年度の事業成果について点検・評価を受審した。評価内容については報告書にまとめ、平成28年11月21日にウェブサイト公表した。	事業年次報告書は、PDCAサイクルの貴重な資料となるとともに、学内外において本学の取組を賦活する上での重要なツールとなった。 第三者評価委員会と杏林CCRC拠点推進委員会との組み合わせにより、学内外双方の視点から正確なPDCAサイクルが実現された。第三者評価委員会では、本学の迅速な取組に対する評価をいただくとともに、大学COC+事業への参画を含めた事業の継続に向けた取組、自治体との連携の在り方、授業成果の可視化、生きがいづくりコーディネーターの地域での活用策、地域志向研究への新たな視点等、多岐に亘る提言をいただき、今後の活動の方針策定の大きな参考となった。
(17) 2月 第4回杏林 CCRCラウンドテーブル（三鷹市）の開催	
平成29年2月18日（土）、本学井の頭キャンパスにおいて「第4回杏林CCRCラウンドテーブル」を実施した。また、「3連携自治体が連携して共通した地域課題に本学と取り組む」という平成27年度の杏林CCRCラウンドテーブルでの提言を受けて取り組んできた内容を踏まえ、3連携自治体関係者と本学教職員、学生によるワークショップとして「三鷹市・羽村市・八王子市と杏林大学の協働ワークショップー災害に備えるまちづくり：今みんなで考えることー」を併催した。 杏林CCRCラウンドテーブルでは連携三市の羽村市長・並木心氏、三鷹市長・清原慶子氏、八王子市長代理・立花等氏（八王子市市民活動推進部長）を囲み、本学からは松田剛明副理事長・跡見裕学長・ポール・スノードン副学長、蒲生忍研究所長・古本泰之地域交流推進室長が参加して開催した。ワークショップでは、三鷹市で活動した学生の報告を聞き杏林CCRCラウンドテーブル参加者よりコメントをいただいた上で、連携3自治体および関係団体の職員、本学教職員、本学学生の混成グループによるグループ討議を行った。 杏林CCRCラウンドテーブルおよびワークショップには、連携自治体出席者は関連自治体・関係団体、本学学生、教職員合わせて75名の出席があった。 ※詳細はP29参照	連携する三鷹市、八王子市、羽村市の自治体関係者より、「地域と大学」「プロジェクト演習系科目」の成果、社会貢献活動に対する地域からの反応、3自治体の連携による課題解決の取組スタート等本学の事業に対する評価と要望の言葉が寄せられ、本学が地域社会と協働してさらに積極的な取り組みをすすめることを再確認できた。 また、今後取り組むべき課題についての新たな提案に加え、既往の取り組みをどのように発展させていくべきか、特に井の頭キャンパス設置後の事業の継続発展について積極的な議論がなされた。

平成28年度 杏林CCRC拠点推進委員会 開催記録

回	日 程	場 所	議 題
第1回	4月18日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階	〈報 告〉 1. 平成28年度工程表について 2. 平成28年度予算について 3. 平成27年度実績報告書について 4. 杏林CCRC研究所紀要の発行・WEB公開について 5. 平成28年度公開講演会について 6. COCアンケート、フォローアップについて 7. 地域連携ワークショップについて 8. 杏林CCRC研究所新連絡先について（4/22(金)～） 三鷹キャンパス 看護・医学教育研究棟6階 内線・FAX調整中 9. COC+ 協定書締結について 10. 生きがい開講式について 〈協 議〉 1. 地域志向教育研究の選考について 2. 地域活動助成の選考について 3. 島根出張について 杏林CCRC研究所長 蒲生先生
第2回	5月16日(月)		〈報 告〉 1. 公開講演会について 5/7（土）「糖尿病から身を守る」 医）石田先生、保坂先生 74名 5/14（土）「抗菌薬が効かない細菌感染症の蔓延とその阻止」 保）小林先生 41名 2. 平成26年度補助金額決定について 3. 平成28年度生きがいづくりコーディネーター（在校生）の履修について 4. 地域連携ワークショップ（5/21(土)）について 一般市民、後援関係者 93名 5. 「地域と大学」の実施状況について 6. 杏林CCRC研究所の連絡先について 0422-47-5511（代表、内線6670）、44-0824（直通）、44-0825（FAX） 〈協 議〉 1. 地域活動助成の選考について 保）柴崎先生、石井先生 2. フォローアップの提出について（5/27(金) メール提出）
第3回	6月20日(月)		〈報 告〉 1. 公開講演会について ・5/28（土）最新知識を学んで健康寿命を延伸 ー脳卒中に足を拘われないために 医）平野先生 207名 ・6/11（土）女性の活躍推進が地域社会の未来をかえる ー1人ひとりが輝くまちづくりのヒント 医）荻田先生 24名 2. 予算執行状況について 3. 地域連携ワークショップ（5/21(土)）について 4. フォローアップの提出について 5. 島根出張報告について 6. ふるさといわて創造協議会運営委員会について 7. COC+における共通成果に対する事業目標値について 8. 杏林CCRC研究所における市民との意見交換（コモンズ活動）について 9. 平成27年度地域志向教育研究の事後評価について 10. COC+ 事業の平成28年度評価の実施について 〈協 議〉 1. 地域活動助成の選考について 保）太田先生、千田先生、榎本先生 2. 羽村市日本語学習支援について
第4回	7月25日(月)		〈報 告〉 1. 公開講演会について ・7/16（土）乳がんの外科治療はどこへ向かうのか ー集中的治療から見た展望 医）井本先生 76名 ・7/23（土）食事を見直し、いきいき生活 ーメタボリックシンドロームと食生活病 医）塚田先生 64名 2. 予算執行状況について 3. COC中間評価について 4. 第三者評価委員会（9/9(金)）について 5. 生きがいづくりコーディネーター受講生との意見交換会について 6. ふるさといわて創造協議会全体会議について 7. COC+ 岩手大学教員による「地域と大学」の講師招聘について 8. 成果報告書について 9. 杏林CCRC研究所連続講座について 10. 平成27年度地域志向教育研究費、地域活動助成費の事後評価について 〈協 議〉 1. 杏林CCRC研究所副所長の任命について

回	日 程	場 所	議 題
第 5 回	9 月 26 日(月)	井の頭キャンパス C 棟 5 階	〈報 告〉 1. 公開講演会について 9/10(土) 意外に知らない子どもの便秘 医) 浮山先生、渡邊先生 34名 9/17(土) リウマチ、膠原病って何? 医) 要先生 115名 9/24(土) 宇宙飛行士の運動トレーニング―無重力とヒトの体― 医) 山田先生 47名 2. 平成28年度工程表について 3. 予算執行状況について 4. 全学アンケート結果について 5. 生きがいづくりコーディネーター受講生との意見交換会について 6. 第三者評価委員会について 7. 杏林CCRC研究所紀要の発行について 8. COC+ふるさとといわて創造部会、教育プログラム開発部会の出席について 9. COC+長期型インターンシップのプログラム提供について 10. 職業実践力育成プログラム(BP)の平成28年度申請について 〈協 議〉 1. FD・SD研修会(案)について 2. 平成28年度予算の使途について 3. 杏林CCRC研究所客員研究員の委嘱について
第 6 回	10 月 17 日(月)	三鷹キャンパス 本部棟 6 階	〈報 告〉 1. 公開講演会について 10/1(土) 排尿から健康状態を知る 医) 桶川先生 98名 10/15(土) 心臓に不安を感じたときに 医) 吉野先生 130名 2. 予算執行状況について 3. 平成28年度中間評価ヒヤリングについて 4. COC+追加協定締結(二戸市、栗石町)について 5. 平成28年度フォーラム・ラウンドテーブルの開催について(H29.2/18(土)) 6. 杏林CCRC研究所連続講座「日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学」について 7. 杏林CCRC研究所と医学部泌尿器科学教室との連携 公開講演会について 8. 杏林CCRC研究所セミナー「地域で取り組むインクルーシブ教育」の開催について 11/16(水) PM 於:三鷹ネットワーク大学 以降、順次開催(3~4回) 9. 岩手出張(蒲生所長、11/6(日)~8(火))について 〈協 議〉 1. 3市連携イベントについて(H29.2/18(土)) 2. 事業の継続性を検討する委員会(ポストCOC検討会)の設置について
第 7 回	11 月 21 日(月)		〈報 告〉 1. 公開講演会について 10/29(土) あなたが手術を受けることになったら ―杏林大病院周術期管理チームの取組― 医) 森山先生 39名 11/10(木) 地域で認知症をみるには 医) 長谷川先生 72名 11/12(土) どこまでなおせる? あたらしい脱毛症治療 医) 大山先生 36名 11/19(土) 高齢者の骨折とその予防(第45回杏林医学会総会市民公開講演会) 医) 市村先生座長 115名 2. 予算執行状況について 3. 第三者評価委員会講評について 4. 岩手出張について 5. COC+教育プログラム開発部会の出席について 6. COC+2017長期型インターンシップのプログラム提供について 7. 平成29年度高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム募集要項について 〈協 議〉 1. 地域活動助成費について 2. 平成29年度生きがいづくりコーディネーター養成講座募集要項について 3. ポストCOC検討会メンバー、会議開催について
第 8 回	12 月 19 日(月)		〈報 告〉 1. 公開講演会について 11/26(土) ピロリ菌と胃がん検診について 医) 高橋先生 58名 12/3(土) 介護予防とリハビリテーション ―呼吸法も取り入れた運動療法の実践― 保) 一場先生 54名 2. 予算執行状況について 3. 第5回杏林CCRCフォーラムのスケジュールについて 4. 次年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の開講科目について 5. 岩手出張について 6. COC+教育プログラム開発部会について(12/12(月)) 7. COC+教育プログラム開発部会事例調査について(H29.1月、高知大+徳島大) 8. COC+ふるさとといわて創造部会他地域調査への参加について(12/13(火)のみ)

回	日程	場 所	議 題
第9回	1月30日(月)	井の頭キャンパス C棟5階	〈報 告〉 - 公開講演会について 12/24(土) あなただけじゃない！本当は多い女性の排尿トラブル 医) 奴田原先生、金城医員 134名 - H29.1/14(土) 糖尿病・透析で足を切断すること 医) 大浦先生 59名 - H29.1/21(土) 意外と身近な緑内障 その怖さ知っていますか… 医) 北先生 181名 - 連続講座 日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学(全日程金曜) 【第一回】(9/9、23、10/14、28) のべ52名 【第二回】(11/4、18、12/2、16) のべ61名 - はじめての死生学 (11/4、18、12/2、16) のべ63名 - 平成28年度COC工程表について - 予算執行状況について - 第5回杏林CCRCフォーラム、ラウンドテーブル、ワークショップについて - FD・SD研修会について - COC+第5回ふるさとをいって創造部会について(H29.1/24(火)) - COC+教育プログラム開発部会事例調査について(H29.1/20(金)～21(土)高知大+徳島大) - 平成29年度「地域と大学」について - 紀要の発行について - 生きがいづくりコーディネーター養成講座受講生 修了式について 〈協 議〉 - 平成29年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の開講科目について - 人事関係について - 地域志向教育研究の募集について
第10回	2月20日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階	〈報 告〉 - 公開講演会について H29.2/18(土) 働き盛り世代のこころの健康づくり… 保) 大瀧先生 35名 - 平成28年度COC行程表について - 予算執行状況について - FD・SD研修会について - 杏林CCRCフォーラム、ラウンドテーブル、ワークショップ開催について - 出張報告について(蒲生所長)(古本室長、井上先生) - 平成28年度評価 評価結果について 〈協 議〉 - 全学アンケートについて - 生きがいづくりコーディネーター養成講座修了認定について - 平成29年度調書について
第11回	3月13日(月)		〈報 告〉 - 平成28年度COC/COC+全国シンポジウムの参加について(H29.3/6(月)、7(火)) - 平成28年度FD・SD研修会について(H29.3/3(金)) - 予算執行状況について - 平成28年度COC行程表について - 平成28年度生きがいづくりコーディネーター養成講座修了式について - 平成29年度生きがいづくりコーディネーター養成講座開講式について - 平成29年度計画調書について(COC、COC+) - 平成28年度実績報告書の提出について - 杏林CCRC研究所紀要発行について - 会計検査院の实地検査について(H29.3/15(水)～17(金)) 〈協 議〉 - 来年度の人事関係について - 平成29年度COC行程表について - 平成29年度生きがいづくりコーディネーター受講生について - 平成29年度地域活動助成費の募集について - 平成29年度杏林CCRC拠点推進委員会日程(案)について - 研究員の任命について - 平成29年度地域志向教育研究費の選考について

1 教 育①

必修授業「地域と大学」で地域の課題を学ぶ

本学では医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の全1年生が必修科目として「地域と大学」を受講します。授業では連携市（三鷹市、羽村市、八王子市）の職員、連携大学教員を招聘し、それぞれの地域の課題を学びます。この授業では4学部混成の215グループにわかれて、グループワークを行うことを中心としたPBL形式の授業を通じて課題解決の手法の基礎を習得します。

学 部	日 程	時限	時 間	教 室	形式	備 考
全 学 部	4月15日(金)	4	14:40 ～ 16:10	A101、A102、 E104、F309、 F310、F311、 F414	講義	厚生労働統計協会編集部長 西山 裕 氏
	4月22日(金)				講義 GW	三鷹市健康福祉部地域福祉課長 馬男木由枝 氏 三鷹市健康福祉部高齢者支援課長 古園 純一 氏 三鷹市健康福祉部地域福祉課 地域ケア担当課長 二浦 孝彦 氏
医 学 部	4月15日(金)	5	16:20 ～ 17:50	F414	講義	厚生労働統計協会編集部長 西山 裕 氏
保 健 学 部 総合政策学部 外国語学部	5月20日(金)	4	14:40 ～ 16:10	A101、A102、 E104、E105、 F309、F310、 F311	講義 GW	八王子市生活安全部防災課長 野口 庄司 氏 八王子市生活安全部防災課主査 高橋 吾朗 氏
保 健 学 部	6月10日(金)	4	14:40 ～ 16:10	A101、A102 F309	GW 発表 講評	八王子市生活安全部防災課長 野口 庄司 氏 八王子市生活安全部防災課主査 佐子 淳一 氏
総合政策学部 外国語学部	6月3日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	GW 発表 講評	八王子市生活安全部防災課長 野口 庄司 氏 八王子市生活安全部防災課主査 佐子 淳一 氏
総合政策学部 外国語学部	6月10日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	講義 GW	羽村市市民生活部危機管理課長 指田 寿也 氏 羽村市市民生活部危機管理課係長 梅津 忠敬 氏
総合政策学部 外国語学部	6月24日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	GW 発表 講評	羽村市市民生活部長 伊藤 文隆 氏 羽村市市民生活部危機管理課長 指田 寿也 氏
総合政策学部 外国語学部	7月1日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	講義 GW	三鷹市総務部危機管理担当部長 防災課長事務取扱 大倉 誠 氏
総合政策学部 外国語学部	7月15日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	GW 発表 講評	三鷹市総務部防災課主査 今井 信介 氏 三鷹市総務部防災課 朝倉 雄平 氏
総合政策学部 外国語学部	7月22日(金)	4	14:40 ～ 16:10	E104、E105、 F310、F311	講義	岩手大学長特別補佐・特任教授 小野寺純治 氏

平成28年度 「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の開講

●13名の履修生が参加して開講式

平成28年4月13日（水）、開設されたばかりの井の頭キャンパスで平成28年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の開講式が行われた。三鷹市民など31歳から79歳までの履修生17名のうち13名が出席し、スノードン副学長から、「講座の受講とともに学内のさまざまな活動に参加され、学生たちに現実の社会を教えていただき、リーダーシップを発揮してください」と期待の言葉が送られた。

本講座は、必修の特別講座と選択科目で構成されている。本年度の特別講座は「世界へのまなざしと地域活動」がテーマであり、履修生は異文化理解・日常英会話力などの基礎や地域の魅力発見・魅力づくりに必要な知識や具体的な技法を学ぶことになる。また、選択科目としては地域保健学や社会福祉学、ホスピタリティー・コミュニケーションなど本学の保健学部・総合政策学部・外国語学部の授業科目が用意されており、地域活動や地域リーダーに必要な知識の修得を目指すことになる。

●自らの思いを自由に語り合った意見交換会

平成28年8月3日（水）、履修生と本学の間で受講の感想や要望を自由に発言していただく意見交換会が行われた。履修生からは、次のような発言があった。

「図書館が利用できるようになって良かった」
「学生時代より学びたい気持ちが強くなった」
「他者へも生きがいを提供できるようになりたい」
「若い世代に学びの大切さを伝えていきたい」

履修生の皆さんは向上心、向学心、さらには他者への貢献心も強く、しっかりとした目的を持ち、履修生として充実したキャンパスライフを楽しんでいることが分かる。

●特別講座で「まち歩き」も体験

平成28年10月26日（水）、特別講座で「観光によるまちづくり

の手法」を体験的に学んでいただくために「まち歩き」が実施され、履修生がそれぞれ感覚カードを持ち、夜の駅前を写真を撮りながらさまざまな角度から観察した。

同年11月9日（水）、井の頭キャンパスにおいて「ワークショップ」を開催し、「まち歩き」の体験をもとに、三鷹市民にとっては頻繁に通いなくなり、初めて訪れた方にとっては再訪したくなるような、居心地の良いまちづくりのために「できること」をグループワークとしてまとめた。

参加した履修生からは、「駅前にあるベンチと椅子の組み合わせは疲れた時に体を休めることができて癒される」、「裏道に入った路地が少し雑然としている」、「駅前に医院が多いので、MAPなどがあれば便利」というような感想やアイデアが発表された。

履修生の皆さんにとっては、「まち歩き」はさまざまな発見をする機会になったようだ。

●全員が誇らしさに輝いていた修了式

平成29年3月18日（土）、井の頭キャンパスにおいて平成28年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」の修了式が執り行われ、14名に履修証明書が手渡された。

修了式の終了後、学長を交えた懇談会が行われた。その中には、「『みたか地域未来塾』に学習支援として参加したことをきっかけに、さらなる活躍の場を見出した」「ホスピタリティコミュニケーションの授業で得た知識が臨時職員の採用面接で活かされた」というような話があった。中には「来年度も受講したい」と言う人もいた。

最後に、杏林CCRC研究所蒲生所長より、「市民と受講することで、学生の授業態度の向上が見込まれますし、今後もさまざまな地域活動の中で皆様のお力をお借りできたらと思います」との言葉があり、修了式は盛況のうちに終了した。

履修証明書を手にした14名は、とても誇らしげに見えた。



特別講座でのまち歩き風景



修了式

3 研究①

杏林CCRC研究所セミナー報告

■第27回 杏林CCRC研究所セミナー

日 時	平成28年11月16日(水)	場 所	三鷹ネットワーク大学
講 師	下島裕美(杏林大学保健学部准教授)、飯高晶子(東京理科大学非常勤講師)、 大家まゆみ(東京女子大学現代教養学部准教授)		
タ イ ト ル	地域で取り組むインクルーシブ教育 ―自尊心をはぐくむには―		

■第28回 杏林CCRC研究所セミナー

日 時	平成29年1月26日(木)	場 所	杏林CCRC研究所
報 告 者	古本泰之(杏林大学外国語学部准教授、地域交流推進室室長)		
テ ー マ	災害に備えるまちづくり研究 ―弱者対応の視点から―		
報 告 者	蒲生忍(杏林CCRC研究所所長)		
テ ー マ	超高齢・多死社会における死生学教育ツールの開発		

■第29回 杏林CCRC研究所セミナー

日 時	平成29年1月27日(金)	場 所	杏林CCRC研究所
報 告 者	市村正一(杏林大学医学部整形外科教室教授)		
テ ー マ	三鷹市老人クラブにおけるロコモティブシンドローム対策指導者育成		

■第30回 杏林CCRC研究所セミナー

日 時	平成29年1月30日(月)	場 所	杏林CCRC研究所
報 告 者	平野照之(杏林大学医学部脳卒中医学教室教授)		
テ ー マ	脳卒中センター診療プロセスの検証と改善が健康寿命に与える効果		
報 告 者	山田深(杏林大学医学部リハビリテーション医学教室准教授)		
テ ー マ	地域における健康増進プログラムの実施：重力負荷の軽減による廃用と運動に焦点をあてた Mission X：train like an astronautプログラムの活用		

■第31回 杏林CCRC研究所セミナー

日 時	平成29年2月23日(木)	場 所	杏林CCRC研究所
講 師	金城真実(杏林大学医学部泌尿器科学教室医員)		
タ イ ト ル	女性泌尿器系の講演会活動の総括と来年度の活動予定について		

4 研究②

杏林CCRC研究所コモンズ開催報告

■コモンズその他活動等一覧

	日 時	訪 問 者	内 容
1	平成28年5月18日(水)	一般企業担当者	CCRCについての情報提供
2	平成28年6月17日(金)		平成28年度 第1回杏林CCRC研究所コモンズ
3	平成28年7月1日(金)		平成28年度 第2回杏林CCRC研究所コモンズ
4	平成28年7月7日(木)	有料老人ホーム関係者	CCRCについての情報提供
5	平成28年7月21日(木)	都内私立病院関係者	CCRCについての情報提供
6	平成28年12月26日(月)	一般企業担当者	CCRCについての情報提供
7	平成29年2月13日(月)	一般企業担当者	CCRCについての情報提供

地域志向教育研究費について

■平成28年度 地域志向教育研究費

責任者	所属	職名	分担者	研究期間	研究テーマ	区分	項目
山田 深	医学部 リハビリテーション 医学	准教授	保健学部 教授 八並 光信	平成28年4月1日(金)～ 平成29年3月31日(金)	地域における健康増進プログラムの実施：重力負荷の軽減による廃用と運動に焦点をあてたMission X：train like an astronautプログラムの活用	一般	健康寿命延伸
			保健学部 学内講師 門馬 博				
			リハビリテーション医学 医員 藤井 浩優				
			リハビリテーション医学 医員 松田 恭平				
市村 正一	医学部 整形外科	教授	リハビリテーション医学 教授 岡島 康友	平成28年4月1日(金)～ 平成29年3月31日(金)	三鷹市老人クラブにおけるロコモティブシンドローム対策指導者育成	一般	健康寿命延伸
			整形外科 助教 長谷川雅一				
平野 照之	医学部 脳卒中医学	教授	脳卒中医学 講師 海野 佳子	平成28年4月1日(金)～ 平成29年3月31日(金)	脳卒中センター診療プロセスの検証と改善が健康寿命に与える効果	一般	健康寿命延伸
			脳卒中医学 学内講師 鈴木理恵子				
			神経内科学 助教 岡野 晴子				
蒲生 忍	杏林CCRC 研究所	所長 特任教授	保健学部 准教授 下島 裕美	平成28年4月1日(金)～ 平成29年3月31日(金)	超高齢・多死社会における死生学教育ツールの開発	教育	持続的発展可能な少子高齢社会像の構築
古本 泰之	地域交流推進室 外国語学部	室長 准教授	地域交流推進室 副室長 石井 博之 地域交流推進室 コーディネーター 井上 晶子 医学部 准教授 富田 泰彦 医学部 助教 荻野 聡之 保健学部 助教 井上 敦 保健学部 特任准教授 千田 晋治 総合政策学部 教授 進邦 徹夫 総合政策学部 准教授 岡村 裕 総合政策学部 講師 三浦 秀之 外国語学部 准教授 八木橋宏勇 外国語学部 教授 宮首 弘子 外国語学部 教授 岩本 和良 地域交流課 課長 依田 千春 国際交流課 課員 榊原 敬治 三鷹市役所健康福祉部 地域福祉課 担当課長 二浦 孝彦 三鷹市役所総務部 防災課 主査 岡 敬祐 生きがいづくりコーディネーター 小高 格	平成28年4月1日(金)～ 平成29年3月31日(金)	災害に備えるまちづくり研究一弱者対応の視点からー	一般	災害に備えるまちづくり

※地域志向教育研究の報告につきましては、「平成28年度 杏林大学・杏林CCRC研究所紀要」をご覧ください。
目次の右側にある数字をクリックすると、各頁が開きます。



市民と専門職で考える参加型ワークショップ

1

～がん経験者の生きる言葉、Maggiesに触れる～ 自分が「がん」になった時の 選択肢を考える

■実施日：平成28年6月11日（土）
■担当者：柴崎 美紀 保健学部 看護学科 講師
中島恵美子 保健学部 看護学科 教授

■ 目 的

多摩地域の地域包括ケアの質の向上と地域志向を持つ学生の育成を目指し、平成25年より活動が続けているのが市民と専門職による参加型ワークショップである。今回は「がん」をテーマにし、参加者が「自分ががんになった時にどうするのか？」と自問しながら治療や療養の選択肢を考えるための場作りをしようと試みた。

■ 実施内容

『がんとう向き合い、対話できる、病院の中ではない、街の中にある居場所』のモデルとして世界規模で波及しているマギーズセンターを日本で初めて開設することに尽力した鈴木美穂氏（マギーズ東京共同代表）の講演会を企画した。さらに、がん経験者とがん治療中の方のご家族を招いてのトークセッション、が

ん治療の専門家をコメンテーターに交えた対話の場も設けた。その後グループワークの場を設けて、「自分ががんになった時にどうするのか？」ということについてそれぞれの参加者に主体的に考えてもらうようにした。

■ 実施効果

今回のワークショップには計88名が参加し、医療専門職45名、医療専門職外（市民）32名など計77名がアンケートに回答した。本学参加者は9名で、うち3名の学生がボランティアとして参加した。アンケートには、「マギーズセンターなど患者を支える力があることを情報として提供できるようになりたい」や「学生さんたち、若いスタッフが盛り上げているところが良い」などの意見が寄せられた。こうした成果は、三鷹市における健康寿命延伸につながる地域内の基盤づくりに資するものと考えている。



がん経験者と、がん経験者の家族によるトークセッション

2

～街づくりと防災～ 災害時の支援や 災害への備えなどを考える

■実施日：平成28年11月27日（日）
■担当者：柴崎 美紀 保健学部 看護学科 講師
中島恵美子 保健学部 看護学科 教授

■ 目 的

市民と専門職を対象とした参加型ワークショップを企画・運営することにより、多摩地域の地域包括ケアの質の向上と地域志向を持つ学生の育成を目指している。6月に運営した前回のワークショップで、次回企画のニーズをアンケート調査した結果、「街づくり」「防災」という要望が多かったので、今回の活動テーマは、「市民と専門職で考える『街づくりと防災』」とした。

■ 実施内容

第一部：災害ボランティア関係者の講演

日赤医療センターDMATチームとして勝見敦氏（医師）、阿部久美子氏（看護師）、医療事務ボランティアとして武藤和幸氏（病院医療事務）の3名より、災害時の時期別支援の内容が語られた。復興支援チーム府中より山下稔氏、大間努氏が登壇され、市民ベースでの災害支援、物資供給や被災後の日常生活支援の内容が語られた。



DMAT および災害ボランティア関係者による講演後の討論の様子

第二部：リアルタイム中継を用いた討論会

第一部の討論を聞きながら付箋に書き込んだ質問や疑問を壁に貼り、Webカメラ配信しながら登壇者と参加者の双方向討論会を行った。

■ 実施効果

今回のワークショップ参加者は市民12名、医療介護専門職20名、学生14名、計46名だった。回収したアンケートによると、医

療介護専門職と学生からは「災害時医療」について、市民参加者からは「災害時の備え」についての興味がそれぞれの参加動機として挙げられており、今回のワークショップは両方を概ね充足する内容となっていた。前回企画に比べて市民と学生の参加者が増加した点からも、幅広い層が関心を持つテーマ選定を行えたこと、本活動の意図する市民と専門職の対話を実現できた点は評価したい。

7 社会貢献活動 健康寿命延伸②

「生涯スポーツの機会提供」プログラム

- 実施日：平成28年 5月15日（土）、5月28日（土）、
6月18日（土）、7月9日（土）、
8月27日（土）、9月24日（土）、
11月26日（土）、12月17日（土）
平成29年 1月7日（土）、1月21日（土）、
2月25日（土）、3月18日（土）
- 担当者：石井 博之 保健学部 理学療法学科 准教授
太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授
楠田 美奈 保健学部 看護学科 助教
大屋 千鶴 保健学部 看護学科 助教
相原 圭太 保健学部 理学療法学科 助教

■ 目 的

これまでの地域交流活動において、健康と運動に関する相談を受けてきた。その多くは、「運動の必要性は感じているものの、きっかけがない」「何から始めていいかわからない」「運動をすると腰痛など痛みが起るので続けられない」「運動を続けているが、効果を感じられない」などというものだった。

そこで杏林大学保健学部の専門性を活かし、日常の運動を多方向からサポートすることにより、健康で活力ある生活を送るための一助になればと考え、本プログラムを実施している。

■ 実施内容

本プログラムは、羽村市保健センターおよび羽村市スポーツ

センターと共同で実施している。内容としては、まず個別に運動に関する相談を受け、その目的や希望、痛みなど運動時の問題などを明確にする。それに併せて学生とともに体力測定、身体機能評価を行い、それらの結果とニーズに合わせた運動の提案を行っている。

また、定期的に参加することで、再評価による運動効果を提示し、効果を実感してもらうことでモチベーションの向上を促している。さらに1人1人が運動の目的に合わせて楽しく、継続可能な運動種目を見つけられること、多種多様な運動を取り入れることで運動効果を高めることを目的に、様々な運動の機会を提供するように心掛けている。

今年度は「歩こう会」「歩き方教室」をそれぞれ2回実施し、「ポールウォーキング」や「ノルディックウォーキング」の紹介、「靴の選び方」や「良い姿勢について」等をレクチャーした。

■ 実施効果

月1回程度の開催であるが、多くの地域住民の方に参加いただき、満足度も高いので、本プログラムはニーズに合ったものであると感じている。

今後は、さらに多様な運動を提供し、加えて個々の運動に対して体力・能力などでのグルーピングを行ったり、1人1人に合ったオーダーメイドの運動を提案したりと、さらに工夫を重ね、地域の健康寿命延伸に資する活動としていきたいと考えている。



羽村健康の日 健康相談会の様子



羽村市スポーツセンターでの歩こう会の様子

8 社会貢献活動 健康寿命延伸③

三鷹市における健幸教室の開催

■実施日：平成28年9月24日（土）、10月15日（土）、11月26日（土）
平成29年1月7日（土）、2月4日（土）
■担当者：榎本 雪絵 保健学部 理学療法学科 准教授

■ 目 的

本事業は三鷹市在住の高齢者を対象に、健康増進に関連する講義とストレッチを中心とした運動の実践を行う健幸教室を開催し、参加者の健康増進および健康寿命の延伸、参加者間の社会交流を促進することを目的としている。地域在住高齢者を対象にしたこのような活動は、介護予防一次予防事業、二次予防事業としても重要と思われる。また、学生がボランティアとして参加することで、学生と地域住民の世代交流の場ともなっており、地域包括ケアの推進、地域づくりが進められている現状において、社会的意義が高いと思われる。

■ 実施内容

慶應義塾大学等と実践したプロジェクト「平成26年度ICT健康モデル（予防）の確立に向けた地方型地域活性化モデル等に関する実証の請負」の参加者によって立ち上げられた自主グループ「体笑会」との共同企画にて、健幸教室を開催することとなった。第1回目は三鷹市社会教育会館にて、第2回目以降は本学井の頭キャンパスで実施した。

健幸教室では、受付にて当日の参加者の体調確認を行い、ストレッチの効果や注意事項に関する講義の後、椅子座位もしくは立位で行うストレッチを中心とした運動の実践を、休憩をとりながら2時間程度実施した。学生は、会場整備や参加者誘導の他、運動指導の実践や補助を行った。本事業には、毎回多く

の学生がボランティアとして参加しており、1人の学生が2名程の参加者を担当し、参加者の生活状況などを聞かせて頂いたり、直接手を添えての運動指導を行った。

■ 実施効果

公募をご覧いただいた多くの三鷹市在住の高齢者の方から参加申し込みを頂き、会場の都合上ご参加いただけない方もいた。参加者からは「有意義な運動の機会を提供してくれている」との言葉を多く頂き、運動機会提供の意義を改めて実感した。本事業では、参加者2名に対し学生1名が担当する場面が多く、学生と参加者との世代間交流、参加者間の社会交流が促進されていると思われた。また、理学療法学科学生がボランティアとして参加しており、高齢者との対話や実際に運動指導を行うことは、高齢者理学療法や地域理学療法実践の貴重な機会となっている。特に学外で実施される評価実習Ⅱ前の3年生、総合臨床実習前の4年生にとっては、理学療法に関する知識や技術習得において、学習意欲や理解促進に役立っていた。参加者からは健幸教室参加希望が多く、当初2回を予定していた開催を4回まで増やし実施した。また、健幸教室開催継続の要望が多く、平成29年度も開催を検討している。



健幸教室で高齢者との交流

9 社会貢献活動 生きがい創出①

極低出生体重児親の会ぴあんずにおける育児支援

■実施日：平成28年5月21日（土）、7月9日（土）、10月29日（土）
平成29年2月25日（土）
■担当者：吉野 純 保健学部 看護学科看護学専攻 准教授
岩田 洋子 保健学部 看護学科看護学専攻 講師
中村 明子 保健学部 看護学科看護学専攻 助教

■ 目 的

極低出生体重児の育児支援サークル「ぴあんず」は、極低出生体重児の親たちが、子育ての悩みを共有し、課題の解決に向けて取り組むことによって、子育ては大変だけど楽しいものだと感じてもらい、子どもの健全な成長発達につなげてもらうことを目的

に、1999年10月に発足した。以降、専門家による学習会の開催や、同じような状況にある親同士の交流などを通じて子育てを支援する活動を年4回継続している。



学生ボランティアによる保育の様子

■実施内容

● 1 回目（平成28年 5 月21日（土））

親同士の情報交換やアドバイスなどを中心に自由にトークが交わされた。乳幼児については発達の遅れを心配する声が多く、学童についてはいじめや学校の教員の配慮不足などが悩みとしてあがっていた。それに対して、経験者の親から具体的なアドバイスが行われた。

● 2 回目（平成28年 7 月 9 日（土））

子どもの年齢に応じて、グループを2つに分け、小児科医師の中川先生からは「就園について」、同じく小松先生からは「就学について」と題した講義があった。その後、親からの悩みや相談について、活発にディスカッションが行われた。

● 3 回目（平成28年10月29日（土））

島田療育センターはちおうじ作業療法士・塩澤悦子先生より、「不器用さについて～手先の指導～」と題した講義があった。その後、親から具体的な悩みや相談が出され、それについて積極的な意見の交換が行われた。

● 4 回目（平成29年 2 月25日（土））

付属病院理学療法士・竹田紘崇氏より、「誕生から歩くまで～

発達にそった援助～」と題した講義があった。その後、質疑応答があり、親から具体的な悩みや相談が出され、ディスカッションが行われた。今回はNICUスタッフも保育に入ったこともあり、さまざまな年齢の子どもが発達や早産児の発達の特徴を実際の子どもを見ながら解説してもらうことができた。

■実施効果

専門家による講義については、真剣に耳を傾ける多くの参加者の姿が見受けられた。また、フリートークでは具体的なアドバイスが経験者の親から発信され、有効な情報交換の場になっていた。さらに、学生たちが熱心にかかわってくれたので、家族からも良い評価を得られた。

学生からは、「実践家の話を直接聞き、親の悩みも知ることができたので、今後の実習や実践にそれを活かしていきたい」という意見が聞かれた。学生たちにとっては負担が大きかったことは事実だが、密に子どもと関わることができたので、満足感も大きかったようだ。学生に地域でのボランティア活動や育児の楽しさを伝えるという本活動の目的を、幾分かは果たせたものとする。

10 社会貢献活動 生きがい創出②

多胎育児支援活動

1

多胎育児準備クラス

■実施日：第 1 回目 平成28年10月22日（土）

第 2 回目 平成28年11月 5 日（土）

■担当者：太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授
佐々木裕子 保健学部 看護学科 准教授
山内 亮子 保健学部 看護学科 学内講師
場家美沙紀 保健学部 看護学科 学内講師
鈴木 朋子 保健学部 看護学科 助教

■目 的

多胎妊娠中の妊婦や家族が医療・看護の専門職や多胎育児経験者と交流を持ち、多胎児特有の不安や問題の解決、ならびに多胎児の親同士の交流の場を提供するのが、多胎育児支援活動の1つである「多胎育児準備クラス」の目的である。



多胎育児準備クラス

■実施内容

● 第 1 回目（平成28年10月22日（土））

多胎妊娠中の保護者20名を対象に、医師による講義（「多胎妊娠・出産の基礎知識」）と多胎育児経験者による講話（「多胎妊娠・出産・育児期からの学び」）が行われた。

● 第 2 回目（平成28年11月 5 日（土））

多胎妊娠中の保護者28名を対象に、助産師による講義（「多胎妊娠期の妊婦の生活と過ごし方」）が行われた。その後、交流会が開かれ、ふたご育児に関する情報交換や多胎児家族との交流が行われた。

■実施効果

参加者にとっては、多胎児家族との交流を図りながら多胎児育児の話を見聞きすることで、将来の安心感につながった。また、参加した学生にとっては、子どもとの触れ合いを通して、子どもの成長や発達を理解し、育児の大変さや悩みを知る機会となった。



助産師による講義

多胎育児支援 「ツインズマーケット」の開催

■実施日：平成29年3月4日（土）

■担当者：太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授
佐々木裕子 保健学部 看護学科 准教授
山内 亮子 保健学部 看護学科 学内講師
場家美沙紀 保健学部 看護学科 学内講師
鈴木 朋子 保健学部 看護学科 助教

■ 目 的

「ツインズマーケット」とは本学井の頭キャンパスにおいて、多胎育児中の家族が年に一度集まる会であり、多胎育児支援活動の1つとして開催しているものである。その目的は、相互支援・教育を推進することにある。

■ 実施内容

12回目当たる今回は、前半では「『きょうだい』と『関係』～一人ひとりを大切に～」をテーマに、角田みずぶ先生（ベル相談室 臨床心理士）による講演会を、後半ではグループワークを行った。なお、今回の参加者は保護者73名、子ども90名の

計163名、本学参加者は学生43名、教員5名の計48名で、総計211名となっており、その数は年々増加している。

■ 実施効果

今回の特徴は父親の参加が多かったことであり、ふたご育児について話ができる機会が少ない父親にとっては、いい機会になったと思われる。参加者からは「双子のママ同士なので、とても共感できた」「これからの子育てのヒントになるメッセージがたくさんあった」等の感想をいただいた。

学生からは「発達段階に合わせた子どもへの関わり方やコミュニケーションの仕方があることを学んだ」「子どもと接しことがなかったので慣れるまでは大変だったが、慣れてくるとなると子どもと遊ぶことができた」「ふたごでも一人ひとりに個性があり、性格が違うことが分かった」等の感想が聞かれ、多胎子育ての大変さや親になることについて学ぶ機会となった。



多胎育児中のご家族が集まりました

11 社会貢献活動 災害に備えるまちづくり①

BLS指導による実践的な災害対応能力の向上

BLS指導による実践的な 災害対応能力の向上

【羽村市立第一、第二、第三中学校に対するBLS指導】

■実施日：平成28年6月10日（金）

【法政大学中学高等学校生徒に対する普通救命講習指導】

■実施日：平成28年7月7日（木）

【防災訓練参加者に対するBLS指導】

■実施日：平成28年11月6日（日）

■担当者：川村 治子 保健学部 救命救急学科 教授
阪本奈美子 保健学部 救命救急学科 教授
千田 晋治 保健学部 救命救急学科 特任准教授
阿部 和巳 保健学部 救命救急学科 学内講師
山崎 章彦 保健学部 救命救急学科 助教
井田 善明 保健学部 救命救急学科 助教
小菅 真昭 保健学部 救命救急学科 助教
石川 高德 保健学部 救命救急学科 助教
神山麻由子 保健学部 救命救急学科 助教
久保佑美子 保健学部 救命救急学科 助教
中島 義夫 保健学部 救命救急学科 非常勤講師

■ 目 的

本学救急救命学科では、学科生全員に「応急手当普及員」の資格を取得させ、地域の中学校や住民への指導が行えるように学内教育を推進している。その成果を活かすと同時に、指導技能の向上も図り、さらに本学の社会貢献活動に対する地域住民の理解を促進するのが目的である。



羽村市の中学生に対するBLS指導

■ 実施内容

BLS指導として、羽村市の3中学校の全生徒520名に対し、心肺蘇生法及びAEDの使用方法について指導を行った。救急救命学科の3年生37名と教員13名が、3中学校に分かれて応急手当の必要性や基本的な観察要領などについて分かりやすく指導した。

また、普通救命講習は三鷹消防署の職員と連携して実施したもので、救急救命学科3年生3名と引率の非常勤職員1名が参加し、法政大学中学高等学校の1年生139名に対し、傷病者の周囲と傷病者の観察要領、心肺蘇生法およびAEDの使い方などを指導した。

防災訓練におけるBLS指導については、平成28年11月6日（日）に三鷹市総合防災訓練が実施され、三鷹市からの本学に対する依頼に応じて実施したもので、教員3名、学生13名が参加し、三鷹市総合防災訓練の一環として約600名の住民に対して指導を行った。なお、三鷹市総合防災訓練は、警察、消防、自衛隊及び医療機関などの防災関係機関の全面的な協力によって実施されたものである。



三鷹市総合防災訓練

■ 実施効果

救急救命学科では平成26年から消防署と協力関係を構築し、救命指導を積極的に行ってきた。平成28年度は校舎の移転に伴い三鷹消防署との連携の強化が課題となっていたが、充実した内容の実習が行えたので十分な手ごたえが得られた。また、学生にとっては能力向上のいい機会になったものと思われる。

2

駅伝大会における 救護活動の実施

【第25回三鷹市民駅伝大会】

■実施日：平成28年11月20日（日）

【第67回全関東八王子夢街道駅伝競走大会】

■実施日：平成29年2月12日（日）

■担当者：千田 晋治 保健学部 救命救急学科 特任准教授
阿部 和巳 保健学部 救命救急学科 学内講師
山崎 章彦 保健学部 救命救急学科 助教
小菅 真昭 保健学部 救命救急学科 助教

■ 目 的

駅伝大会は人気のあるスポーツだが、長丁場の競走なので、その間にどんなトラブルが起きるか分からない。そこで、救急救命学科では駅伝競走大会の参加者の安心と安全の確保を図る



三鷹市民駅伝大会の救護協力

ことを目的に、三鷹市及び八王子市からの依頼により救護所における応急救護を担当した。

■ 実施内容

三鷹市民駅伝大会には保健学部救急救命学科の教員3名、学生14名が参加し、現地救護所で傷病者発生時の救護活動を実施した。

全関東八王子夢街道駅伝競走大会には保健学部救急救命学科の教員3名、学生16名が参加し、コースに設けられた4か所の救護所にAED等の救急資器材を配置し、応急救護を担当した。

■ 実施効果

187チームが参加した「第25回三鷹市民駅伝大会」や、全国から過去最高の540チーム、約2,160名が参加した、公道を走る駅伝大会としては国内最大規模を誇る「第67回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」においても、事故による怪我人、急病人などの発生はなかった。参加者の安全確保が図られ、駅伝大会成功の一助となったことは、地域に密着した社会貢献活動としての誇りでもある。



全関東八王子夢街道駅伝競走大会の救護協力

「地域連携ワークショップ まちづくりに『新しい風』を」を開催

平成28年5月21日（土）、開設から1カ月半が経過した井の頭キャンパスにおいて、「地域連携ワークショップ まちづくりに『新しい風』を」が開催された。地の拠点としての本学を理解してもらうと同時に、本学と地域との協働による新しいまちづくりについて共に考える機会にすることを目的としたもので、大学、市民、事業者、行政関係者など約170名が参加した。

イベントの開催に先立って、松田剛明副理事長、跡見裕学長、清原慶子三鷹市長の3氏から開会に当たっての言葉が寄せられた。

松田副理事長は、「大学の専門教育や研究を、地域の活性化にどのように役立てられるかを皆さんと考えていきたい」と本学と三鷹市のさらなる連携のスタートを宣言した。

跡見学長は、「井の頭キャンパスの開設により4,000人規模の大学関係者が三鷹市に移って来たことは非常に大きな出来事です。大学として、皆さんの声に向き合ってまいります。そしてこれから、市民、行政、大学の三者協働で、三鷹から新しい風を起こしていきましょう」と挨拶した。

清原三鷹市長は、住民はじめ在勤・在学者、ボランティア等の活動に携わるすべての人が三鷹市民であるとしたうえで、「皆さんの創意工夫と柔軟な発想で、新しい民・学・産・公の連携の形を見つけない」と今後の協働活動に大きな期待を寄せた。

第一部では、三鷹市をフィールドにした地域連携活動の発表が行われた。保健学部の高澤恵子教授が、高齢者や一人暮らしの方などを対象にした自分のためのガイドブックづくりを目指

す「私の案内書づくり」講座について、同学部の佐々木裕子准教授と学生が、子どもたちの命の大切さを伝える活動について、それぞれ紹介した。さらに、「三鷹国際交流フェスティバル」にボランティアとして参加した学生や、三鷹市の商店会を紹介した「三鷹市内まち歩きマップ」の作製に携わった学生が、それぞれの活動内容と感想を発表した。

第二部では、(株)キュムラス・インスティテュートの代表取締役であり、東北芸術工科大学の非常勤講師（コミュニティ・デザイン学科）でもある岩井秀樹氏をファシリテーターに迎え、「高齢者がいきいきと暮らせる協働のまちづくりー健康・生きがい・安全安心ー」をテーマとした協働のまちづくりワークショップが開催された。このワークショップでは、参加者が、「いつまでも健康に暮らす」「生きがいのある暮らし」「災害に備える地域づくり」という3つのテーマから1つを選び、テーマごとにグループとなって、それぞれの課題や解決方法について活発に意見交換を行った。

最後に、ポール・スノードン副学長からまとめと閉会の挨拶があった。

こうして、大学、市民、事業者、行政関係者が一堂に会したイベントは熱気のうちに幕を閉じた。



学生による地域連携活動の発表



ワークショップの様子



ワークショップでの意見交換



グループワークでの課題や解決をまとめた様子

第4回杏林CCRCラウンドテーブル・第5回杏林CCRCフォーラムと連携3市との協働ワークショップを開催

平成29年2月18日（土）、井の頭キャンパスにおいて第4回杏林CCRCラウンドテーブル、第5回杏林CCRCフォーラム、連携3市との協働ワークショップが開催された。

杏林CCRCラウンドテーブルでは、連携3市（三鷹市、羽村市、八王子市）の市長を招いて、平成28年度の「地（知）の拠点整備事業」の活動実績報告ならびに市長と本学の代表者による意見交換が行われた。その中で、本学側からは来年度の生きがいづくりコーディネーター養成講座の募集への協力を各市にお願いした。

三鷹市からは、本学のキャンパスが八王子から移転したことにより市民数が1年間で2,000人も増えている状況なので、本学には地域の活性化につながるイベントを期待する旨が述べられた。また、本学が行っている老人クラブの活動を、周辺の高齢者を元気にさせるものだとして評価して、市として支援対象の活動に選定したと述べた。

羽村市からは、本学が授業の一環として行っている同市の中学生に対するBLS講習会への協力やにぎわい音楽祭への協力を高く評価し、今後も継続して欲しいとの要請があった。また、防災ふれあいフェアや公開講演会などについては、広報の仕方を変える必要があると述べた。

八王子市からは、JR八王子支社との協働活動で訪日外国人への案内ツールについて本学が活動していることに触れ、おかげで外国人にとって同市が住みやすい場所であることが知られ、留学生も増えているとの発言があった。

杏林CCRCフォーラムは、三鷹市長、羽村市長、八王子市市民活動推進部長などの地域関係者と、松田副理事長や跡見裕学長をはじめ本学の教職員や学生など80名余りが参加して開催された。午前中は、これまで地域と活動を進めてきた4つの学生のグループがその成果を発表した。そのうち総合政策学部進邦ゼミのグループは、三鷹駅で店舗展開している（株）アトレと連携し、地域の店舗や団体、見どころなどを紹介する魅力いっぱいリーフレットを、社会人と課題を共有し、一つひとつ解決しながら作り上げていったことを成果として発表した。

また、保健学部救急救命学科のグループは、羽村市で中学生520名を対象に開いたBLS（一次救命処置）の訓練や、八王子市で開催された駅伝大会での救護活動など、1年間を通じて実施した取り組みを報告した。

午後からは、「長寿社会における災害時の地域づくり」と題してワークショップが開催された。連携3市の担当者と本学の教員・職員・学生が7名ずつ6つのグループに分かれて、何が課題になっているかや、今後に向けた具体的な解決策などについて活発な議論を展開し、各グループが最後に議論の結果を発表して、全員が認識を共有した。

「地（知）の拠点整備事業」は来年度が最終年度となるが、2015年度から始まった「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に発展的に吸収され、その後は岩手大学を中心とした岩手の行政・高等教育機関と連携し、地方創生に向けた取り組みを推進することになっている。



杏林CCRCラウンドテーブルの様子



学生発表の様子



ワークショップでの発表風景



ポール・スノードン副学長の総評

連携市での様々な活動

●「青梅・羽村ピースメッセンジャー」への参加

羽村市と青梅市は、中学生を広島へ派遣し、戦争の悲惨さと平和の大切さを心で感じ取ってもらう「青梅・羽村ピースメッセンジャー」事業を行っている。平成28年8月4日（木）～8月6日（土）、その広島のピースツアーに保健学部2名と外国語学部1名の学生が参加し、中学生のリーダーとして共同事業の支援を行った。「これからの平和のためにどう行動していくべきなのか、自分なりの答えを見つけることができました」と語る高橋さんは後日、その体験を教職支援講座で発表した。そのスピーチは聴く人の心を捉え、「来年はぜひ自分も参加したい」と早速行動を開始した学生もいた。



原爆の子の像の見学

●「大学生と学ぶ！はむら英語交流の集い」 講座の開催

平成29年2月26日（日）、杏林大学学生連携企画の1つとして「大学生と学ぶ！はむら英語交流の集い」講座が開催された。これは、外国語学部英語学科の八木橋宏勇准教授と外国語学部の学生が講師となって、羽村の名所を簡単な英語で紹介しようというもので、42名ほどの市民が受講した。受講者は70代以上が38%、60代が28%、50代が13%などとなっており、英語が得意でない人も少なからずいたが、講師たちのサポートにより受講生全員が楽しんでいた。アンケートでも74%の人が「期待通り」と答え、もっと回数を増やして欲しいという声もあり、大好評だったことが分かった。



英語交流の集い

●第19回地域教育シンポジウムへの参加

平成29年1月21日（土）、羽村市生涯学習センターゆとろぎにおいて第19回地域教育シンポジウムが開催された。このイベントは、地域の大人が子どもを取り巻く状況等について知り、地域の教育力を高め、地域ぐるみで子どもの成長を見守っていくためにはどうしたらよいかを考えることを目的としている。本学からは今回は、高校生以上の若者の考えを取り入れるために、羽村市と連携している本学の総合政策学部の学生3名、保健学部の学生2名がシンポジウムに参加した。その結果、「考えてみよう！みんなの個性！～自分を表現できていますか～」をテーマにした今回のシンポジウムは、参加者が200名（小中学生・大人）を超える大盛況となった。



意見交換会の様子

●「みたか地域未来塾」での学習支援活動

三鷹市では10月から、鷹南学園（中原小学校、東台小学校、第五中学校）で週1～2回、放課後の教室を利用し、地域住民や近隣の大学生などが学習支援員として、児童や生徒の個別学習の支援を行う「みたか地域未来塾」を実施している。基礎学力の定着と学力向上を図ることを目的とするこの「みたか地域未来塾」で、本学の生きがいづくりコーディネーター養成講座の履修生5名、本学教職課程の履修生17名が学習支援員として補助している。同講座等で培った知識と経験が、未来へつなぐ人材育成となる学習支援に大いに活かされている。



本学生生きがいづくりコーディネーター受講生も支援

●医学部1年生が“三鷹市の医療と福祉”をテーマに学習発表会を開催

医学部1年生が必修科目「地域と大学」の学習発表会を10月28日（金）大学院講堂で実施した。

学生たちは4学部合同の「地域と大学」の授業を経て、6月からは担当教員の指導のもと「三鷹市の医療と福祉」をテーマに掲げ、三鷹市役所や三鷹市医師会の協力を得てグループ別の研究発表にむけてフィールドワークを医療・福祉の現場で展開してきた。共通テーマである「三鷹市の医療と福祉」について、各グループが自ら設定した課題に対し、街に出てその課題に関連する仕事に携わっている方達に直接お話を伺いし、地域から学ぶという実践学習を体験することで、社会が医師・医療従事者に望んでいることを実感した。参加した学生からは「これから医療の現場で働く時に必要な、人との関わりを学ぶ事ができました」などの感想や意見が得られた。



医学部の学生発表会

●選挙権年齢18歳引き下げで、学生が模擬投票を実施

井の頭キャンパスで6月29日（水）、1・2年生による模擬投票が行われた。今回の模擬投票は、総合政策学部 木暮健太郎准教授のゼミナール所属の2年生11人が中心となり、3週間をかけて架空の3つの政党の選挙公約を考え、掲示物を作成するなどの準備を行い、模擬投票期間中は運営と投票参加への啓発活動を行った。投票用紙や記載台など投票に必要な物品は、本学と地域交流活動で連携している三鷹市、八王子市、羽村市の選挙管理委員会の協力を得て実施した。木暮ゼミでは、これまでも三鷹市、八王子市、羽村市の選挙の出口調査に携わったり、羽村市選管の依頼を受けて高校生や子供達に模擬投票の指導をするなど、選挙の啓発活動等を行っている。この模様は、6月30日（水）付の毎日新聞武蔵野版で紹介された。



投票後に総合政策学部 木暮ゼミ生が投票啓発ティッシュを配布

●八王子学生発表会で本学久野ゼミが三年連続最優秀賞

第8回大学コンソーシアム八王子学生発表会が12月3日（土）、4日（日）、八王子市学園都市センターで開かれ、本学総合政策学部の久野ゼミナールが市政提案部門において三年連続・三回目の最優秀賞を受賞した。「続々・宿場町八王子再生機構の提案 ～清流米と江戸東京野菜を用いた新地域ブランドの創出～」をテーマに発表。八王子が宿場町化した江戸時代、峠越えのお供として旅人から「にぎり飯」が愛されていたことに着目。いまでも絶対的な特産品が確立されていない八王子において、市内で生産されている希少な清流米と江戸東京野菜を用いた新しい「にぎり飯」を市内の大学生が開発。これを宿場町八王子の特産品として、高尾山登山に訪れる日本人や外国人に対して販売することを提案、「八王子らしさ」、「実現可能性」、「独創性」、「プレゼン力」、および「質疑応答力」などの審査項目が総合的に評価され、受賞に至った。



受賞後の総合政策学部 久野ゼミのメンバー

●八王子まつり山車曳き体験へ参加

8月5日（金）～7日（日）の3日間を通して、八王子最大のお祭り「八王子まつり」が、JR八王子駅周辺の甲州街道を中心に開催された。

日本の伝統文化の一つである祭りを体験することにより、日本文化や日本と母国との文化の考え方や違いを学び、相互の理解の一助となる事を目的として留学生1名が山車曳き体験に参加した。

参加した留学生は、実際に山車を動かす事の難しさを実感しながらも、日本文化にふれ、充実した体験となった。



山車曳き風景 ※大学コンソーシアム八王子提供

平成28年度 FD・SD研修会を開催

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）は、各大学が地方公共団体や企業等と協働して学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を育成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することを目的とした事業である。本学では平成25年度からCOC事業を進めるのと同時に、平成27年度からは「COC+」大学（事業責任大学）である岩手大学が進める「ふるさと創生プロジェクト」事業に「COC+」参加校として取り組み、活動を展開している。

この取り組みについて情報を共有するために、平成29年3月8日（水）、岩手大学より岩手大学長特別補佐・特任教授の小野寺純治氏、COC推進室・特任教授の赤木徳顕氏、COC推進室・特任准教授の船場いさお氏を講師として招聘し、井の頭キャンパスにおいてFD・SD研修会を実施した。

研修会では、『岩手と杏林大学が連携して創造できること』をテーマに、COC+事業の推進を通じて岩手県の現状と地域課題

を的確に把握している各講師から、岩手大学での取り組み事例と杏林大学に期待することについて講演していただいた。FD・SD研修会に参加した127名の教職員が岩手県でこれから展開できる取り組みの「可能性」を導く機会となった。



『岩手と杏林大学が連携して創造できること』の講演風景

杏林大学 地（知）の拠点整備事業 平成27年度事業にかかる第三者評価報告書

I. 第三者評価委員会の開催概要

- 日 時：平成28年9月9日（金）15：00～17：00
- 場 所：杏林大学井の頭キャンパス C棟5階 514会議室
- 出席者：第三者評価委員（敬称略）：
井藤英喜先生（東京都健康長寿医療センター理事長）
中村秀一先生
（（一社）医療介護福祉政策研究フォーラム理事長）
関谷 博先生（羽村市社会福祉協議会顧問）
杏林大学：
跡見 裕（学長）
蒲生 忍（杏林CCRC研究所所長）
古本泰之（地域交流推進室室長）
依田千春（地域交流課課長・COC事業事務主担当）
- 評価資料：
①地（知）の拠点整備事業申請書
②平成27年度大学改革推進等補助金調書
③平成27年度実績報告書
④平成27年度事業成果報告書
⑤平成27年度杏林CCRC研究所紀要
⑥平成28年度評価 進捗状況報告書

II. 第三者評価報告書

平成27年度事業報告をもとに、第三者評価委員から以下のように事業成果に対する評価、意見、助言を受けた。

1. 総括的評価

全般的にみてCOC事業は着実に進展し、成果を挙げていると思われる。

（1）生きがいづくりコーディネーターについて

これまで日常生活を行う上で困っていることへの対処は介護保険サービスの一つである訪問介護の家事援助サービスで賄われてきたが、介護保険制度の見直しで軽度者については3年以内に訪問介護が廃止され、地域高齢者の多様なニーズに合わせ、生活支援コーディネーターが中に入って順番待ちのない非公式な、介護保険外のサービスにつなげることが求められている。本事業で行っている「生きがいづくりコーディネーター養成講座」であるが、受講修了者の活躍の場として、自治体が生活支援コーディネーターとして任命することを考慮いただくということはいかがだろうか。そのことで「生きがいづくりコーディネーター養成講座」受講により、退職したシニアの方の何かの道筋ができるかもしれない。

政府は、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援等サービスのコーディネート機能を果たす者を「生活支援サービスコーディネーター」として配置していく方針である。生活支援コーディネーターは特別な資格取得が必要とされていない。花の水やりや掃除、犬の散歩、話し相手など、介護保険制度ではカバーされないが高齢者が必要とする支援を提供するネットワークを地域において作っていく役割を担うものである。生活支援を求める方は個々に必要とする内容が違い、本当に支援してもらいたいことを幅広く捉える必要がある。高齢社会の中では元気な高齢者は支える側に回るといいうサービスであろう。このような活動も都市型高齢社会を構築していこうとするCOC事業にあてはまるのではないかな。

生活支援コーディネーターの構築は2018年度までに行われる予定で、コーディネーターの活動に対する費用は自治体が負担する仕組みである。今後も政府からの情報を収集して、踏み込みすぎない、緩やかな関係で高齢者を支援できるような体制作りを考察し、自治体とともに話し合いながら検討、実施していくといいのではないかな。

（2）自治体との連携について

複数の自治体と最初から同時に物事を進めようとするとう無理が生じるため、一自治体で体制を構築し、動向を見ながら他の自治体へ推進していくという方法もあると思う。行政の窓口も強弱があるため、関連部署を頼るばかりでなく、懸案によっては直接自治体の首長にお願いをしてカウンターパートナーを担っていただき、一自治体をモデル体制として進めたほうが迅速に対応できる場合もあるだろう。

（3）地域志向教育研究活動について

地域志向教育研究については今後活動を継続していくための研究費の確保など検討すべきことがありそうだが、社会貢献についてはダイナミックに動いていて素晴らしい。やりっぱなしではなく、今後教育にどう生かしていくのか、この活動をどのように継続していくのか、方法はどのようなのか問われてくると思う。いずれにしても補助金の切れ目が事業推進の切れ目にならないように今後の継続性を検討する時期だろう。

（4）COC事業について

COC事業である地域志向の人材育成からCOC+の地域創生事業へ移行したとのことであるが、枠組みが変わって岩手大学と連携を組んでも今まで通り自信をもって基本線を書きながら地道に遂行してほしい。継続が力になることは間違いない。

2.【教育】地域に対する意識向上のための 科目の設定と運営実績

八王子から井の頭へのキャンパス移転を機に全学部必修科目『地域と大学』の授業を学部合同で受講させ混成チームでグループワークを行ったとのこと、人文系がある杏林大学ならではの強みであり、医学部、保健学部にとっても良い相互作用があると考えられる。大学生活の最初に分野の異なる学生と交流することはフラットで多角的な視点を持つことができる素晴らしい機会だと思う。ただ、得られた成果を評価されたり点数化されないと消極的になる学生が多いので、この授業を受けるとこのような能力、評価が得られることを明文化して就職活動に有利になることを意識づけたほうが効果的だと思う。そしてこのような教育は大学の宣伝にもなり、就職に結びつける際のトレー

ニングとして一つの売りにすることもできるだろう。さらには雇用する側としても、様々な体験をしている学生を選びたいことに加えて、能力面での安心材料となると思われる。地域志向の人材づくりの柱にする授業を新たに必須科目にするなど工夫が肝要であると思う。今後の継続性をどうするか、残りの2年間に教育をどう位置づけるのかをかなり真剣に考えないといけない時期にあたっていると思う。

3.【研究】地域を志向した研究体制の 構築促進と実績

健康寿命に関しては運動や社会参加に関与することで積極的に行われているようだが実は『食生活』、『栄養』も重要な要素である。食事や栄養の研究を遂行するためには、農学部等を保有し、COC+で協働している岩手大学に協力をお願いすれば、新しく学ぶ素材があるかと思う。健康と農業との問題、都会と農村の食事の違いなどを研究する機会を持つことができるといいかもしれない。

ITを利用した高齢者の見守りという点について警備会社が情報やアイデアを欲しているため、その点の研究を進めてみてもいいのではないかな。

災害に関する活動への注力が弱い印象を受けた。今後どうするかを検討案件としてほしい。

4.【社会貢献】杏林CCRCに即した 社会貢献活動の促進と実績

COC事業の開始とともに始まった「生きがいづくりコーディネーター養成講座」だが、社会人の学び直しの講座であるという観点から、自主学習や通信教育が可能なのか検討してもらいたい。受講生の理解度のチェックのためにも通信教育、自主学習、集中講義など、受講方法が考慮できるとさらに受講しやすいのではないかな。

昨今人付き合いが苦手な社会人が多いので、それを補うスキルとして学生時代に地域と交わりながら大学生活を過ごすことは大きな財産になるであろう。地域課題に直接向き合うことができるような地域との結びつきの強い、医療法人や社会福祉法人等と連携し、学生が出入りできる止まり木のような拠点となる場所づくりを進めることを提案したい。北海道のある大学では、キャンパスの所在する町で学生の地域活動が就職に結びつき、社会福祉法人を立ち上げたという成功例もある。学生から起業した形として参考になるかもしれない。



第三者評価委員会の様子

①「生涯活躍のまち・いすも」と島根大学医学部附属病院の視察と意見交換のための出張

- 実施日：平成28年5月29日（日）、30日（月）
- 訪問者：蒲生 忍（杏林CCRC研究所 所長）
- 訪問先：島根県出雲市

生涯活躍のまち構想（いわゆる「日本版CCRC構想」）は、現在最も重要視されている施策であり、文部科学省COC/COC+ 事業においても「大学と地域の連携による地方創生」として重要視されているテーマである。現在、日本版CCRC構想に基づき各地で高齢者コミュニティの検討と創造、特に高齢者の都市から移住を含んだ取り組みが積極的に進められている。本学のCOC事業においても「持続可能な新しい都市型（超）高齢社会」という切り口において共通性を有し、直面する課題解決と将来像構築に向けて、真摯な検討を進めている所である。

島根県は、「田園回帰1%戦略（島根県立大学連携大学院藤山浩教授）」による地域再生で現在注目を集めている。本出張では、研究所の蒲生（特任教授）が日本版CCRCの一事例である「生涯活躍のまち・いすも」とICTを活用した大学と地域の医療連携の事例である島根大学医学部とその関連施設を訪問し、都市から地方への移住の現状と地域の高齢者医療支援について視察、意見交換を行った。

5月29日（日）午前羽田空港を発ち、出雲空港経由で出雲市に到着した。あいにくの雨天のため、午後2時より4時まで出雲市駅前のホテルロビーにおいて、島根大学医学部特任教授・NPO法人生活習慣病予防研究センター代表の塩飽邦憲先生との意見交換を行った。日本版CCRC「生涯活躍のまち」においては移住と多世代の交流が大きなテーマである。その一事例である「生涯活躍のまち・いすも」においては「生活の質」を金銭換算した「住みやすさ」（経産省調査2015年）全国2位であることをセールスポイントに、高齢者のみならず子育て世代も含めた移住を推進している。また、高齢者にとって重要な医療や介護においても、全国平均を上回る医療機関充足率、救急医療での実績、介護施設の充足と連携の充実も果たしている。生涯活躍の実現には健康寿命の延伸が不可欠であり、それに向けた生活習慣病の予防に向けた活動も進んでいる。塩飽教授によるとこの多くは「出雲医療圏」という地理的な特性と、医療の中核として島根大学医学部が継承してきた伝統による所が大きいとのことであった。

30日（月）は日本臨床腫瘍研究グループJCOG及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構AMEDの革新的がん医療実用化研究事業長島班他と合流し、島根大学医学部呼吸器・化学療法内科の磯部威教授、津端由佳里講師の案内により、附属病院において「島根県の高齢がん診療の実践」について説明を受け見学した。

午前は10時から12時半まで主に現在臨床研究として行われている「電子カルテ内の高齢者機能評価機能」について見学した。高齢者の総合的機能評価の臨床における重要性は明らかであるが、大半の施設では実施と利用の体制整備は進んでいない。当該臨床試験は問診票を電子カルテ内に取込んで実施している。このようなシステム構成には多くの否定的な懸念が想定されるが、それを克服した画期的な試みである。今後のさらなる改善と発展が期待できる。

午後は1時半から5時半まで主に島根県の「まめネットを用いた病診医療連携」について地域の高齢者のケアを担当する診療所（すぎうら医院）の見学を含め連携の実践について見学した。まめネットはICTをフルに利活用したもので、高齢化の進行、医療資源の偏在等を解消する画期的なシステムである。このシステムは電子カルテの種類に制限されることなく、登録医療機関の登録患者の情報を統合的に閲覧できる。多くの否定的懸念を想定しうる中で、地域医療の充実を最優先にシステムを設計した結果と推測できる。医療圏内の総ての病院のネットワークが完了しており、今後のより効率的な運用には可能な限り多くの地域住民の登録が待たれるところである。これも出雲市を核とする医療圏の特性によるところが大きいと推測できる。このシステムの有用性は明らかであり、他の地域での利用に向けての論点の整理と課題克服が期待される。

今回、島根県の出雲という独特の地域性を持つ医療圏での病診連携、高齢者医療の改善の試みを見学した。「持続可能な超高齢社会」「健康寿命延伸」という観点では非常に先進的であり参考となる取組であり、この実現に寄与された関係者の熱意に敬意を表する。今後はより良い医療の実現に向け、さらなるICT技術の革新と、各地の地域の特性を踏まえたうえで従来の枠を超え一歩踏み出す意識改革が待たれる。また、今回見学した病診連携や地域連携を、大学や行政機関の枠を超える自由度のある活動として進めるには、積極的なリーダーシップに加えNPO法人化も必須であろう。

午後5時半、予定時間を超える見学を終え、出雲空港経由で帰京した。

②「オークフィールド八幡平」での意見交換・居住の課題についての資料収集と、岩手大学・岩手県立大学との意見交換

- 実施日：平成28年11月6日（日）～8日（火）
- 訪問者：蒲生 忍（杏林CCRC研究所 所長）
- 訪問先：岩手県八幡平市

現在、各地で日本版CCRC構想に基づき「生涯活躍のまち」としての高齢者コミュニティの検討と創造が進められている。本学がCOC事業において連携する岩手県八幡平市においても日本版CCRC「生涯活躍のまち」としてサービス付高齢者住宅「オークフィールド八幡平」が開設された。この「オークフィールド八幡平」は岩手山麓の八幡平高原の豊かな自然の中で一般財団法人みちのく愛隣協会が営利ハビリテーションと地域医療を専門とする医療施設（東

八幡平病院）や社会福祉法人みちのく協会が経営する軽費老人ホーム（ケアハウスアーベイン八幡平）と特別養護老人ホーム（富士見荘）と隣接する。2015年末から入居を開始した先進的な事例であり、全国的にも注目を集めている。今年6月26日（日）～27日（月）に訪問し、その開設と開設後の経緯と背景や課題等を調査した。

今回の出張においては「オークフィールド八幡平」に滞在し、都市から地方への移住の現状と問題点、特に死生学教育に資する資料とするため、入居者とその移住に至る経緯と今後の人生への展望について意見交換を行なった。また、居住の課題では、前回の訪問時に懸念された移動の課題、特に公共交通機関でアクセス可能な範囲を体験する事で、問題点を考察する資料を収集することを目的とした。また、併せて本研究テーマに関してオークフィールドとも接点

を持ちかつCOC+ 事業にも関与する岩手大学小野寺純治教授、岩手県立大学宮城好郎教授と面会し連携の可能性を検討することを目的とした。

11月6日（日）午前、自宅発、西国分寺と大宮経由で13時に盛岡に到着した。JR花輪線は朝夕の通勤時間帯の各4本を除き、昼間はほとんど運行していない。昼間に八幡平市の東八幡平松尾地域に至る公共交通機関は岩手県北バスに限られる。従って、盛岡駅発13時42分の岩手県北バスでオークフィールド八幡平に向かった。午後3時過ぎにオークフィールドに到着し、代表の山下氏と滞在中の計画について協議し、八幡平市の交通、特にコミュニティバスの利便性について実地体験することとした。

その後、宿泊するユニットで休憩、岩手県立大学宮城好郎教授の到着を持った。

午後6時半より宮城教授、入居者と夕食を共にしつつ移住に至った経緯と今後の生活への希望等について意見を聞いた。入居者A氏より長く学校教育に従事し多くの生徒を首都圏に集団就職させた事情とその後、B氏より障がい者の就労支援の経験等、岩手県下での入居者の活動は興味深かった。また、CCRC住民と八幡平市民の高齢化に伴う公共交通機関の必要性について話を聞いた。食事後、宮城教授、山下氏、オークフィールド職員最上雄吾氏と八幡平市の魅力と課題について意見交換した。

11月7日（月）快晴。午前朝食後、入居者の方々とポッチャを行なった。公式ルールに基づくコート（12.5m×6m）は確保できないが食堂に奥行き6-7mのフローリングの床がある。目標球にできるだけ近づけるという簡易ルールで約1時間実施した。入居者には適度な運動になる事、ゲーム性がある事、また冬季でも室内で楽しめる事等から極めて好評であった。

その後、コミュニティバスを体験するため山下氏と始発駅の八幡平市役所に向った。八幡平市役所（JR花輪線北森駅隣接）から八幡平市内の集落、八幡平国民健康保険西根病院、JR大更駅、温泉施設

「おらほの温泉」、西根病院を再び経由し東八幡平病院まで乗車する（合計約23km、時刻表上の所要時間1時間5分）。このコースはその後さらに市内を周回し一周2時間、国道と県道上は所定の停留所、それ以外は任意の場所で乗降可能、料金一律100円である。この他に数コースあるが、各コース一日一回の運行である。八幡平市役所で11時30分発のバスは車両トラブルのため約10分遅延して到着した。私のみ乗車し、山下氏は車で追従した。市内の要所の間を丁寧に繋ぎながら運行する。運行経路は道幅が狭い所もあるが、交通量が少なく信号も少ないため当初の遅れを拡大することなく順調に進んだ。但し、市役所からオークフィールドまで約10km車であれば15分の所を1時間強、平均乗客数5名程度であり、所要時間、運行効率共に非効率な印象を受けた。オークフィールドへ帰着後、昼食と休憩をとり、岩手大学COC担当の小野寺教授の到着を待った。

午後5時より、小野寺教授と八幡平市役所関貴之氏も参加してオークフィールドを含む地域の振興策、地域の振興に必須の交通機関の問題点について意見交換した。午後7時より、夕食を小野寺教授や入居者と共にしつつ地域の歴史や課題、振興策について意見交換を続けた。

11月8日（火）朝食後、小野寺教授と、今後も八幡平市での活動について意見交換と連携を継続することを確認した。山下氏にはポッチャの積雪期の中高齢者も無理なく楽しめる室内競技として可能性を検討していただくことを依頼して道具一式を預けた。10時過ぎの盛岡行きの県北バスで帰途に就いた。バスはほぼ定刻通りの運行で盛岡駅に到着し、東北新幹線・大宮経由で午後4時、自宅へ帰着した。

岩手県は車依存社会ではあるが交通量が全体的に多くないことから、交通渋滞はほとんど発生せず、車での移動の定時性は高い。公共交通機関の運行も定時性は高いが、効率性は必ずしも高くない。今後、車の運転が困難な高齢者が増加した場合、また公共交通機関が発達した都市居住者の移住を期待する場合、社会的にどのような移動手段を準備するのか、早急に検討すべき大きな課題である。

③ 平成28年度 FD・SD研修会 打ち合わせ

- 実施日：平成29年2月6日（月）
- 訪問者：古本泰之（地域交流推進室 室長）
井上晶子（地域・大学間コーディネーター/特任講師）
- 訪問先：岩手県盛岡市

COC事業も残すところ期間が1年となった今年度のFD・SD研修会を開催するにあたり、COC事業の新たな展開としてCOC+ 事業において岩手と連携をとることとなったことを学内で理解してもらうことを目的として、岩手大学に内容の相談のため訪問した。岩手

大学のCOC+ 推進コーディネーターと打ち合わせを行い、岩手県の現状や課題を報告してもらうとともに、岩手大学と本学のそれぞれができる取り組みの可能性を講演の中から感じてもらえる様な内容の方向性で話し合いが進められた。

話し合いの結果、岩手県の自治体職員による岩手の現状をお話しいただくこと、岩手大学によるCOC+ 事業の取り組みを報告してもらい、今後のCOC+ 事業の展開を考えるきっかけとする。また参加者と情報を共有することで本学としてできる取り組みを参加者と共有する。

④ 全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+ 全国シンポジウム「地方創生と大学」への出席

- 実施日：平成29年3月6日（月）、7日（火）
- 訪問者：蒲生 忍（杏林CCRC研究所 所長）
青柳優子（地域交流課 係長）
- 訪問先：高知県高知市

蒲生 忍（杏林CCRC研究所 所長）

高知大学主催の全国ネットワーク化事業・平成28年度COC/COC+ 全国シンポジウム「地方創生と大学」に参加するため、平成29年3月6日（月）朝羽田空港を出発し、高知龍馬空港経由でシンポジ

ウム会場の高知市内のザ クラウンパレス新阪急高知に向かった。シンポジウムには全国より約400名以上が参集した。

主催者高知大学の挨拶の後、文部科学省・内閣官房まち・ひと・しごと創生事務局次長松尾泰樹氏より「地方創生と大学～COC+の推進」として、わが国の地方を取り巻く現状を総括し、その対策としての地（知）の拠点としての地方大学の強化について講演があった。続いて前地方創生担当大臣の石破茂衆議院議員による「地方から創生する我が国の未来」と題する特別講演が行なわれた。石破議員は統計資料を豊富に用いた独特の語り口で、現在我々が直面している地方の疲弊は過去のどのような時代とも全く異なり、それゆえに過去の地方活性化の施策を超える取り組みが必要であることを訴

えた。続いて株式会社小松製作所相談役坂根正弘氏が「日本の課題ーデフレ脱却と地方創生ー（コマツは日本の縮図）」と題し、業績不振であった小松製作所を世界企業として成長させた経営戦略とその経験に基づく地方創生について基調講演を行なった。

これに続き、高知大学副学長・地域連携推進センター受田浩之氏をファシリテーターに「先進技術と地方創生」と題した基調討論が行なわれた。パネリストとして社会技術研究開発センター・センター長岩瀬公一氏が「社会技術」という概念から地方創生における社会技術の重要性と応用について、高知県産業振興センターの渡部正二氏は電気メーカーとネット通販事業で活躍した経験に基づき、また高知、東京、海外に拠点を置く株式会社Nextremerの向井永浩氏がインターネット・ベンチャー企業の立場からの地方創生についてそれぞれ事例を報告し討論が展開された。

午後5時から6時までポスターセッションが開催された。これにはCOCとして8大学、COC+として8機関、COC/COC+として本学を含めて10機関の合計26機関が参加した。本学は全学共通の必修科目「地域と大学」を全学部一年生の混成で実施したことを中心にしたポスターを掲示した。本学の取組みは医療・保健系を含めたものであり医療・保健系も活発に活動している。このような取組みはCOC事業の中でも他には例がないことから活発な質疑が行なわれた。

3月7日（火）午前、会場を高知市内の商工会館に移し、事例報告会が行なわれ300名以上が参加した。富山県立大学からは「工学心で地域とつながる地域協働型大学の構築」と題し地域の産業界と連携し、また学生グループを主体とした事例が報告された。宮崎大学からは「大学COC事業から地域を志向する新学部設置へ」と題し、食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業「地域活性化・学生マイスター」養成教育プログラムが紹介された。岐阜大学からは「岐阜大学地域協学センターの取組みについて」と題して「次世代地域リーダー育成プログラム」と「多様な人々が集う場フューチャーセンター」が紹介された。いずれも地域の課題に取組む人材育成を目指した学生教育プログラムである。高知大学からは「高知大学におけるCOCの成果～UBCの機能と役割～」と題し、高知大学インサイドコミュニティシステムに属する大学地域コーディネータ（University Block Coordinator）の高知県内の4つの地域ブロックでの地域課題解決に向けた活動について報告があった。

COC事業は4年の活動を終える時期に至り、各大学の地域課題に取組む人材育成を目指した「地域志向」の学生教育プログラムの体制が固まりつつある。また大学と地域産業界や社会との具体的な連携の手段も示されつつある。本シンポジウムはCOC事業全体で蓄積された知の共有が目的であろうが、それぞれ異なる特性と立地を持つ大学がその知をどのように活用するかが、今後の課題であろう。

青柳優子（地域交流課 係長）

高知大学主催の全国ネットワーク化事業・平成28年度COC/COC+ 全国シンポジウム「地方創生と大学」に参加しました。参加者は年々増加しているとのことで、今年は400人を上回り会場は満席でした。挨拶を兼ねて文部科学省・内閣官房まち・ひと・しごと創生事務局次長松尾氏から「地方創生と大学～COC+の推進」と題した講演が行われました。地方は総じて学力の低下がみられ、学生を地元に着させるためにも学校教育が大切であり、大学の役割の一つとして知的な刺激の提供が肝要だと力説されました。各大学が本気で地方創生に取り組みないことには良くならないと同時に、大学だけではどうにもならない案件であることは間違いないことから産官学民が一体となり、日本の未来に向け優れた若者を地方に着させるべく、考えられる機能をすべて備えたいと結ばれました。次に石破茂衆議院議員（前地方創生担当大臣）から「地方から創生する我が国の未来」と題して特別講演が行われました。現在の日本の人口約1億2,700万人は、2100年には5,200万人、2200年には1,391万人と恐ろしく減少することが予測されており、過去の遺産で食いつなぎ危機感を感じずにも何も創り上げてこなかった日本の反省点が現れて

しまっているとのこと。エネルギー生産も食糧生産もない東京に人が集中することから超高齢化が加速しており、既に経験と勘と思いこみでは何も成り立たない状況に陥っているため、数字から分析を行うことが重要で、これからも引き続き次世代への責任を持ち、大学から日本を変えてほしいと願っていると思いが伝えられました。また、地産地消から地産他消へ、産官学から産官学労言へ、行政と企業、市民とともに意識の共有が大切だと感じている。

地方創生とは地方に人が散ればいいという簡単な話ではなく、東京が持ち合わせる可能性を最大限に生かすためにも東京の弱点を克服することが地方創生に繋がるのだと講演されました。株式会社小松製作所相談役坂根氏からは、「日本の課題ーデフレ脱却と地方創生ー（コマツは日本の縮図）」と題して、石川でスタートをきり世界に通じる会社として成長させた経緯や地方創生について基調講演をいただきました。絶対にやり抜くをモットーに、コマツでないと困る度合いを深め、選ばれ続ける存在になるよう、地方創生の観点から子供を対象とした理科教室を始め、のべ100名以上が参加している。過当競争による消耗戦や東京の国際都市化による地方の疲弊、第一次産業の衰退が今後の課題になっていくのではとの提言がありました。

続いて「先進技術と地方創生」と題して基調討論が行われました。高知大学副学長・地域連携推進センター受田浩之氏がファシリテーターとなり、パネリストとして社会技術研究開発センターのセンター長の岩瀬氏がドベネックの桶に例えた人口流出の原因と課題について報告され、今後日本の労働人口の49%が就いている職業について10年から20年先には人工知能（AI）やロボットで技術的に代替できるようになるだろうと話されました。前職のソニーでネット社会の可能性を展開してきた高知県産業振興センターの渡部氏からは、今現在Amazonで買えないものはないが買い物難民がいることは否めない。今後は新技術をどうやって使うか、例えば対話システムを用いた高齢者のデイサービスを開発するうえで心のバリアが生じないような欲求と技術を融合させた新たな価値観を提案したいと報告がありました。株式会社Nextremerの向井氏からは東京と高知、インドに拠点を置いた『人“高知”脳』計画の話伺いました。この数十年で人の働きを奪ったり倒産するのではなく、いかに人材を確保するかが地方創生の取り組みになると同時に、実現のために乗り越えなくてはいけない案件として技術システムがあるから導入するのではなく、技術の手の二重から多面的に見ることが望ましいと話され、AIが人の働きを奪うのではなく、創造は人が、単純業務はAIに任せて第三次産業の効率化を図ることがAIの貢献のポイントとなるのではと提案がありました。

講演等の終了後、午後5時から6時までポスターセッション（26校）が開催され、蒲生所長と共に行いました。他大学の先生やコーディネーターと意見交換を行い終了しました。

3月7日（火）9時より高知商工会館にて学生の地域志向教育を例に挙げた事例報告会が開かれました。富山県立大学からは「工学心で地域とつながる地域協働型大学の構築」、宮崎大学からは「大学COC事業から地域を志向する新学部設置へ」、岐阜大学からは「岐阜大学地域協学センターの取組みについて」の事例が報告されました。共通して地域課題に焦点をあて、地域志向の人材育成を目標にした取り組みで、どの大学も地域にどっぷりとつかった活動で、今後も継続した活動が求められると思われました。最後に高知大学から「高知大学におけるCOCの成果～UBCの機能と役割～」と題し、大学地域コーディネータが県内4つのブロックで行っている地域課題に向けた活動報告がありました。

COC（学生の地域志向人材の育成）を踏まえてのCOC+（地方創生）事業は、事業化している大学だけが志す問題ではなく、日本全体の大きな課題と捉えると何かしらの形で進化しながら今後も遂行していくべき取り組みであり、大学に対する地域、政府、企業の期待は相当なものだと改めて感じました。

公開講演会・公開講座

本学では平成28年度において、大学が持つ知的資源をより広く地域住民に還元するため、地（知）の拠点整備事業のテーマである「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に関連したテーマの他、知識や教養に結びつく多数の公開講演会を実施しました。本学井の頭キャンパス、三鷹キャンパスのほか、三鷹市・三鷹ネットワーク大学、羽村市・羽村市生涯学習センターゆとろぎ、羽村市コミュニティセンター、八王子市・八王子市学園都市センターを会場として、計21回開催しましたが、いずれの講演会にも多数の聴講者が来場し、おおむね好意的な評価が寄せられました。

平成28年度公開講演会 ※地（知）の拠点整備事業に関連したもの

No	日 程	時 間	講演タイトル	講師氏名	開催場所
1	平成28年 5月7日（土）	14:00-15:30	糖尿病から身を守る （第3回杏林医学会市民公開フォーラム）	医学部教授 医学部講師 看護部 石田 均 保坂 利男 山田 光洋	三鷹ネットワーク大学
2	5月14日（土）	13:30-15:00	抗菌薬が効かない細菌感染症の 蔓延とその阻止	保健学部教授 小林 治	井の頭キャンパス
3	5月28日（土）	14:00-16:00	最新知識を学んで健康寿命を延伸 —脳卒中に足を掬われないために	医学部教授 平野 照之	井の頭キャンパス
4	6月11日（土）	13:30-15:00	女性の活躍推進が地域社会の未来をかえる —一人ひとりが輝くまちづくりのヒント	医学部教授 荻田 香苗	羽村市生涯学習センター ゆとろぎ
5	7月16日（土）	13:30-15:00	乳がんの外科治療はどこへ向かうのか —集学的治療から見た展望	医学部教授 井本 滋	大学院講堂
6	7月23日（土）	13:30-15:00	食事を見直し、いきいき生活 —メタボリックシンドロームと食生活	栄養部科長 塚田 芳枝	大学院講堂
7	9月10日（土）	14:00-15:30	意外に知らない子どもの便秘	医学部教授 医学部講師 浮山 越史 渡邊 佳子	三鷹ネットワーク大学
8	9月17日（土）	13:30-15:00	リウマチ、膠原病って何？	医学部教授 要 伸也	井の頭キャンパス
9	9月24日（土）	13:30-15:00	宇宙飛行士の運動トレーニング —無重力とヒトの体—	医学部准教授 山田 深	大学院講堂
10	10月1日（土）	13:30-15:00	排尿から健康状態を知る —トイレで健康チェック—	医学部教授 桶川 隆嗣	八王子市学園都市 センター
11	10月15日（土）	14:00-15:30	心臓に不安を感じたときに	医学部教授 吉野 秀朗	八王子市学園都市 センター
12	10月29日（土）	14:00-15:30	あなたが手術を受けることになったら —杏林大病院周術期管理チームの取組	医学部学内講師 森山 久美	三鷹ネットワーク大学
13	11月10日（木）	14:00-16:00	地域で認知症をみるには	医学部准教授 長谷川 浩	羽村市 コミュニティセンター
14	11月12日（土）	14:00-15:30	どこまでなおせる？あたらしい脱毛症治療	医学部教授 大山 学	三鷹ネットワーク大学
15	11月19日（土）	13:30-16:00	高齢者の骨折とその予防 （第45回杏林医学会総会市民公開講演会）	医学部教授 市村 正一	第一講堂
16	11月26日（土）	13:30-15:00	ピロリ菌と胃がん検診について	医学部特任教授 高橋 信一	大学院講堂
17	12月3日（土）	13:30-15:00	介護予防とリハビリテーション —呼吸法も取り入れた運動療法の実践	保健学部講師 一場 友実	大学院講堂
18	12月24日（土）	13:30-15:00	あなただけじゃない！ 本当は多い女性の排尿トラブル	医学部教授 医学部医員 奴田原紀久雄 金城 真実	大学院講堂
19	平成29年 1月14日（土）	13:30-15:00	糖尿病・透析で足を切断すること	医学部臨床教授 大浦 紀彦	臨床講堂
20	1月21日（土）	13:30-15:00	意外と身近な緑内障 その怖さ知っていますか…	医学部講師 北 善幸	井の頭キャンパス
21	2月18日（土）	13:30-15:30	働き盛り世代のこころの健康づくり	保健学部教授 大瀧 純一	羽村市生涯学習センター ゆとろぎ

平成28年度八王子学園都市大学・いちよう塾 前期講座（平成28年4月～平成28年7月実施講座）

No	日 程	時 間	講演タイトル	講師氏名
1	平成28年 4月14日～ 5月26日 5回（各木曜日）	10:20-11:50	そのまま使える個人事業者のための実践簿記【基礎編】 ～複式簿記を学んで自分で申告しよう!～	名誉教授／税理士 千葉 洋
2	4月14日～ 6月9日 7回（各木曜日）	13:30-15:00	シェイクスピアの世界（15） ～ジェイムズ朝悲劇『マクベス』を鑑賞する～	外国語学部 元教授 川地 美子
3	4月21日～ 5月19日 3回（各木曜日）	15:20-16:50	いちから分かるシェイクスピア	外国語学部 元教授 川地 美子
4	5月12日～ 6月30日 8回（各木曜日）	15:20-16:50	パチカン―その聖と俗を探る ～日本大使の一四〇〇日～	外国語学部 特任教授 上野 景文
5	5月20日～ 5月27日 2回（各金曜日）	18:40-20:10	社会言語学の現代的課題 ～フィールドワークからの知見～	外国語学部 大学院 国際協力研究科 教授 玉村 禎郎 外国語学部 准教授 八木橋宏勇
6	6月4日～ 8月20日 10回（各土曜日）	13:30-15:00	近世小説の世界 ～井原西鶴の『好色一代男』を読む～	外国語学部 元教授 草場（相磯） 裕
7	6月10日～ 7月8日 5回（各金曜日）	10:20-11:50	認知症のケアとリハビリテーション・作業療法	保健学部 教授 下田 信明
8	6月9日～ 7月7日 5回（各木曜日）	10:20-11:50	そのまま使える個人事業者のための実践簿記【実践編】 ～複式簿記を学んで自分で申告しよう!～	名誉教授／税理士 千葉 洋
9	6月28日～ 7月12日 3回（各火曜日）	10:20-11:50	高齢者の健やかな生活のための運動とリハビリテーション ～介護の必要がない日常生活のために～	保健学部 講師 橋立 博幸
10	7月9日～ 7月30日 3回（各土曜日）	15:20-16:50	アロマテラピー基礎講座（7月開講講座） ～エッセンシャルオイルを用いたリラクゼーション～	保健学部 講師 西村 伸大

平成28年度八王子学園都市大学・いちよう塾 後期講座（平成28年9月～平成29年3月実施講座）

No	日 程	時 間	講演タイトル	講師氏名
1	平成28年 9月3日～ 11月26日 10回（各土曜日）	15:20-16:50	古今悪女譚 ～中国古典『列女伝』、記紀の女性像、近世の女性像～	外国語学部 元教授 草場（相磯） 裕
2	9月3日～ 11月26日 10回（各土曜日）	13:30-15:00	近世小説の世界 ～井原西鶴の『好色一代男』を読む～	外国語学部 元教授 草場（相磯） 裕
3	9月26日～ 1月16日 15回（各月曜日） ＊12/27のみ火曜日開講	16:20-17:50	時事問題研究B	総合政策学部 講師 島村 直幸 ※
4	9月29日～ 10月27日 5回（各木曜日）	10:20-11:50	終末期医療を法的視点から考える ～安心して老いるために～	総合政策学部 教授 橋本雄太郎
5	9月29日～ 10月27日 5回（各木曜日）	10:20-11:50	そのまま使える個人事業者のための実践簿記【基礎編】 ～複式簿記を学んで自分で申告しよう!～	名誉教授／税理士 千葉 洋
6	9月20日～ 1月17日 15回（各火曜日）	10:40-12:10	国際関係論Ⅱ	総合政策学部 講師 島村 直幸 ※
7	10月27日～ 12月15日 7回（各木曜日）	13:30-15:00	シェイクスピアの世界（16） ～『ソネット集』～	外国語学部 元教授 川地 美子
8	10月31日～ 12月26日 3回（各月曜日）	18:00-19:30	高齢者の健康	保健学部 准教授 岡本 博照
9	10月6日～ 12月15日 5回（各木曜日）	15:20-16:50	パチカン―その聖と俗を探る ～日本大使の一四〇〇日～	外国語学部 特任教授 上野 景文
10	11月10日～ 11月24日 3回（各木曜日）	15:20-16:50	いちから分かるシェイクスピア	外国語学部 元教授 川地 美子
11	11月17日～ 12月15日 5回（各木曜日）	10:20-11:50	そのまま使える個人事業者のための実践簿記【実践編】 ～複式簿記を学んで自分で申告しよう!～	名誉教授／税理士 千葉 洋
12	平成29年 1月28日～ 2月25日 4回（各土曜日）	18:00-19:30	バイリンガル研究と日本の言語教育	外国語学部 准教授 八木橋宏勇
13	2月3日～ 3月24日 7回（各金曜日）	15:20-16:50	やさしく学ぶ簿記の初歩	総合政策学部 教授 原田奈々子 総合政策学部 教授 内藤 高雄 総合政策学部 准教授 高田 京子 総合政策学部 元非常勤講師 三沢 清
公開講座	平成28年 10月28日（金）	18:00-19:30	文明論から見た西欧	外国語学部 特任教授 上野 景文
	平成29年 1月28日（土）	13:30-15:00	2016年アメリカ大統領選挙と日米関係 ～異端と主流派との戦い～	総合政策学部 講師 島村 直幸

※は杏林大学開催

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」について

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、各大学が地方公共団体や企業等と協働して学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することを目的とした事業である。この事業は、平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させたもの。本学では平成27年度から、「COC+」大学(事業責任大学)である岩手大学がすすめる「ふるさと創生プロジェクト」事業に「COC+」参加校として取り組み、活動を展開している。

【事業概要】

岩手県内7高等教育機関により「いわてを知り、理解する」「いわてを説明する」「いわてをつなぐ」「いわての未来を創造する」学生(いわて創造人材)を育成し、岩手が培ってきた強固な産学官連携、地域連携をベースに学生の地域定着を加速する。

具体的には、①若者・女性の地域定着を促すための地域企業等の魅力度アップや首都圏等の学生も受け入れて実施するインターンシップ強化、②新産業及び雇用の創出を図るための産学官連携拠点でのイノベーション推進、商品の販路拡大、③三陸復興のための継続的取り組みと復興教育連携の先導モデル創出、④企業家人材育成のための地域リーダーとの協創体験や人材育

成道場開催などに取り組む。これらにおいて、女性の視点からの取り組みを積極的に推進する。このような取り組みを通じて県内就職率の10%の向上を図るものである。

【事業責任大学・協働機関】

（事業責任大学）

岩手大学

（参加大学）

杏林大学、岩手県立大学、富士大学、盛岡大学、岩手県立大学盛岡短期大学、岩手県立大学宮古短期大学部、一関工業高等専門学校

（参加自治体）

岩手県、盛岡市、宮古市、大船渡市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、二戸市、八幡平市、奥州市、滝沢市、雫石町、矢巾町、金ヶ崎町、岩泉町

（参加企業等）

岩手県商工会議所連合会、岩手県立商工会連合会、岩手経済同友会、岩手県中小企業団体中央会、岩手県中小企業家同友会、岩手県農業協同組合中央会、岩手県漁業協同組合連合会、岩手県森林組合連合会

（事業の一部を協力する大学）

東京海洋大学、横浜国立大学、首都大学東京、北里大学、立教大学、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科



U・Iターン就職(LO活)セミナー



FD・SD研修会での講義

COC+ 事業における杏林大学の取り組み（平成28年度）

授業、研修会への招聘

件 名	日 程	場 所	出席者	内 容
必修科目「地域と大学」に招聘	平成28年 7月22日（金）	杏林大学 井の頭 キャンパス	小野寺純治氏 （岩手大学長特別補佐・特任教授）	総合政策学部、外国語学部の1年次必修科目「地域と大学」において、岩手大学のCOC+の取組や地方創生への関わりについて講義をいただいた。
FDSD研修会に招聘	平成29年 3月8日（水）	杏林大学 井の頭 キャンパス	小野寺純治氏 （岩手大学長特別補佐・特任教授） 赤木徳顕氏 （岩手大学COC推進室特任教授） 船場いさお氏 （岩手大学COC推進室特任教授）	COC事業の新たな展開となるCOC+事業における岩手との連携、COC+事業における岩手の現状と地域課題、杏林大学の役割などについて講演いただいた。

会議、現地訪問等への参加

件 名	日 程	場 所	出席者	内 容
ふるさといわて創造協議会運営委員会、ふるさといわて創造部会	平成28年 6月9日（木）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会運営委員会、ふるさといわて創造部会へ出席し、本学の取組について述べた。
「オークフィールド八幡平」の視察・意見交換・遠隔講義参加と岩手大学共同研究員・八幡平市役所職員との意見交換	平成28年 6月26日（日） 27日（月）	オーク フィールド 八幡平	蒲生 忍（杏林CCRC研究所長）	医療施設や介護施設、特別養護老人ホームが隣接した「オークフィールド八幡平」の視察と意見交換、岩手県立大学による遠隔講義への参加と自治体職員等との意見交換を行った。
ふるさといわて創造協議会運営委員会	平成28年 7月1日（金）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会運営委員会へ出席し、本学の取組について述べた。
ふるさといわて創造協議会全体会議	平成28年 7月7日（木）	岩手大学	跡見 裕（学長） 古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会全体会議へ出席し、本学の取組について述べた。
ふるさといわて創造部会・雇用創出ワーキンググループ	平成28年 9月5日（月）	岩手大学	依田千春（地域交流課 課長）	ふるさといわて創造部会・雇用創出ワーキンググループへ出席し、本学の取組について述べた。
岩手県内事業所見学バスツアー	平成28年 9月6日（火）	岩手県北上市	黒岡友貴 （総合政策学部総合政策学科3年）	岩手県内の事業所（企業）を見学するツアーに参加し、企業訪問を行った。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成28年 9月15日（木）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会へ出席し、本学の取組について述べた。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成28年 9月15日（木）	岩手大学	青柳優子（地域交流課 係長）	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会へ出席し、本学の取組について述べた。
「オークフィールド八幡平」での意見交換・資料収集と岩手大学、岩手県立大学との意見交換	平成28年 11月6日（日） ～ 8日（火）	オーク フィールド 八幡平	蒲生 忍（杏林CCRC研究所長）	都市から地方への移住の現状と問題点や移住に至る経緯、今後の人生への展望について入居者と意見交換を行った。また岩手大学、岩手県立大学と意見交換を行った。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成28年 11月11日（金）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会へ出席し、本学の取組について述べた。
インターンシップ教育内で 告知	外国語学部 「キャリア指導1」 「キャリア指導2」	平成28年 11月16日（水）	外国語学部2年生、3年生対象 キャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター職員が授業の一部やセミナー開催時に、NPO法人WIZの主催する2017年春季実践型インターンシップについて、チラシを配布し説明周知した。
	総合政策学部 「キャリア開発演習」	平成28年 11月18日（金）	総合政策学部3年生対象 キャリアサポートセンター	
	低学年向け 地方就職セミナー	平成28年 12月21日（水）	保健学部、総合政策学部、 外国語学部1年生、2年生対象 キャリアサポートセンター	
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成28年 12月12日（月）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会へ出席し、本学の取組について述べた。
ふるさといわて創造部会先進事例視察調査	平成28年 12月13日（火）	共愛学園前橋 国際大学	依田千春（地域交流課 課長） 青柳優子（地域交流課 係長）	インターンシップの取り組みや事業の推進などについて情報共有・収集を行った。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会先進事例視察調査	平成29年1月 19日（木） ～ 22日（日）	高知大学、 徳島大学	太田ひろみ （地域交流委員会委員、保健学部教授）	インターンシップの取り組みや事業の推進などについて情報共有・収集を行った。
ふるさといわて創造部会・雇用創出ワーキンググループ	平成29年 1月24日（火）	岩手大学	依田千春（地域交流課 課長）	ふるさといわて創造部会・雇用創出ワーキンググループへ出席し、本学の取組について述べた。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成29年 2月28日（火）	岩手大学	古本泰之（地域交流推進室長）	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会へ出席し、本学の取組について述べた。

地域交流活動報告書 目次

健康分野での地域交流活動

きらめきハッピーキャンプ	42
アクティビティを通して高齢者を元気にしよう	42
肢体不自由児のスポーツ活動支援	43
バドミントンを通じた健康増進と障害予防に関する支援事業	43
健康分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）	44

教育分野での地域交流活動

幼児と保護者を対象とした性教育	45
「私の案内書作り」講座	45
教育分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）	46

地域活性化分野での地域交流活動

HIV感染予防に関する情報提供	47
JR東日本八王子支社・八王子市役所との連携による 「駅からハイキング」プログラムの作成・実施	47
JR東日本八王子支社・みたか都市観光協会との連携による 「駅からハイキング」プログラムの作成・実施	48
鎌倉浄智寺写真供養感謝祭の企画・運営	48
高齢者・障がい児者の音楽療法を基とした地域活動	49
青梅市御岳山外国人誘致プロジェクト「天空芸者ナイト」	49
三鷹における地域活性活動を通じた実践教育	50
各種情報交換・共同研究を推進した地域貢献活動と交流活動	51
八王子市内での地域イベントの活性化活動を通じたイベント教育	52
地域活性化分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）	53

その他の分野での地域交流活動

秋田県湯沢市・秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動に参加	54
その他の主な地域交流活動（一部掲載）	54

本学と三鷹市・羽村市・八王子市との連携	55
新聞記事・メディア紹介	57



健康分野での地域交流活動

保健学部 発達障がい児の野外活動支援 きらめきハッピーキャンプ

指導教員名 太田 ひろみ 学生代表者 鈴木 彩香（保健学部）

■ 概 要

平成28年8月12日（金）から13日（土）の1泊2日で、保健学部12名、外国語学部2名の学生も参加し、新潟県魚沼市銀山平において実施。

プログラムは、カヌー、イワナつかみどり、星空観察、餅つきなどの体験型と、学生が企画するものづくりなどの参加型の2つ。

■ ねらい

野外活動を楽しむ機会が少ない発達障がい児に野外活動の楽しさを体感してもらうこと。

■ 成 果

子どもたちは自然の中でのさまざまな体験により、達成感、自己効力感、自尊心・自己肯定感を育むことができた。

学生は発達障がいに対する理解を深め、将来専門職として働く上で必要な知識と態度を形成することができた。



夏の楽しい思い出になりました

保健学部 作業療法科

アクティビティを通して高齢者を元気にしよう

指導教員名 齋藤 利恵 学生代表者 宮田 沙弥（保健学部）

■ 概 要

平成28年12月8日（木）から月1回程度、特別養護老人ホーム愛全園を学生2～5名と共に訪れ、施設スタッフに手伝っていただきながら20名の施設利用者とアクティビティを用いて交流した。

■ ねらい

要介護高齢者に対し、アクティビティを用いて運動機能、認知・心理機能、コミュニケーション能力、ADL動作の維持・向上を目指す。同時に、学生の要介護高齢者への理解を深めること。

■ 成 果

覚醒度が上がり、両隣の人同士が会話を楽しんだり、普段は口数が少ないのに積極的に発言するようになった高齢者もいた。また、KAPLAを積み上げる際、普段機能訓練を拒否する利用者

の方も、学生の励ましで、普段より長く立ち上がって作業する場面が見られた。

学生にとっては、自分のコミュニケーション能力を知る機会になり、教育上の有効性がある。



アクティビティでの交流

保健学部 理学療法学科（芝原ゼミ）

肢体不自由児のスポーツ活動支援

指導教員名 芝原 美由紀 学生代表者 池山 大樹（保健学部）

■ 概 要

平成28年9月25日（日）肢体不自由児活動支援（浦安市）に学生7名参加、平成28年10月8日（土）肢体不自由児スポーツ活動支援（横浜市）に学生4名参加、平成28年11月12日（土）と26日（土）には肢体不自由児の車いす陸上の練習に学生が各4名参加した。また、平成28年10月15日（土）にボッチャ選手の練習への協力とインタビューを学生4名の参加で実施した。ボッチャ大会の運営への協力などの他に、新しい活動として、平成29年1月7日（土）、8日（日）に狛江市と協力し、日本ボッチャ協会から講師を招き、学生30余名が参加してボッチャの普及を目指した講習会を主催した。内容確認や会場設営なども行った。



ボッチャの普及講習会

■ ねらい

日頃スポーツに親しむ機会の少ない肢体不自由児にスポーツを楽しんでもらうことと、ボッチャの普及や選手のレベルアップを促進すること。

■ 成 果

リオパラリンピックに参加したボッチャ選手とその活動グループと一緒に練習ができ、さらにその後、選手にインタビューをしてリオパラリンピック以後のことについて話を聞く機会も得られたことは、学生にとっては有意義だった。



狛江市での活動の様子

保健学部 理学療法学科（門馬ゼミ）

バドミントンを通じた健康増進と障害予防に関する支援事業

指導教員名 門馬 博 学生代表者 仲野 誠一郎（保健学部）

■ 概 要

平成28年11月24日（木）、八王子市富士森体育館にて八王子レディースバドミントン連盟に所属する皆さんへの救急・テーピング講習会を開催。学生ボランティア3名が参加した。

平成29年1月22日（日）、八王子甲の原体育館にて行われた八王子新春バドミントン大会においてトレーナーブースを運営。学生ボランティア2名が参加した。

■ ねらい

バドミントンにおける障害予防に向けた取り組みによって、スポーツで楽しく健康に過ごしてもらうこと。選手が大会において良いパフォーマンスが出せるようにサポートすること。

■ 成 果

講習会については、参加者にはテーピングの効果を実感して

もらえ、学生にとってはテーピングの実技などが参考になった。トレーナーブースについては、選手からはサポートのお陰で思い切りプレーができると喜ばれ、学生は現場での貴重な経験をする事ができた。



テーピング講習会の風景

健康分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）

No.	行 事 名	実 施 期 間	活 動 主 体
1	マタニティー&ベビーフェスタ2016	平成28年 4 月 2 日（土）	保健学部
2	三鷹市民公開講座「腎臓について考えるフォーラム」	平成28年 5 月14日（土）	医学部・医学部附属病院
3	第19回東京都脳卒中市民公開セミナー	平成28年 5 月28日（土）	医学部・医学部附属病院
4	三鷹市老人クラブ連合会の ロコモティブシンドローム予防事業	平成28年 7 月22日（金）	医学部・保健学部・医学部附属病院
		平成28年10月22日（土）	
		平成29年 2 月25日（土）	
5	三鷹市医師会 平成28年度 三鷹市中高年者の運動相談事業 「メディカルチェックと運動処方」	平成28年 8 月15日（月） ～ 18日（木）	医学部・保健学部
6	読売・日本テレビ文化センター健康講座 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断と治療	平成28年 9 月 4 日（日）	医学部・医学部附属病院
7	杏林大学医学部附属病院と 三鷹市老人クラブ連合会との合同行事 健康長寿講演会	平成28年 9 月10日（土）	医学部・医学部附属病院
		平成29年 2 月 7 日（火）	
8	三鷹市難病検診	平成29年 2 月14日（火）	医学部・医学部附属病院
9	三鷹市市民健康講座「知ってスッキリ！ 子どもの便秘」	平成29年 2 月15日（水）	医学部
10	三鷹市ケアマネ交流会（連雀・駅周辺地区）	平成29年 2 月24日（金）	保健学部
11	市民公開講座 「すこやかに生活するために肺を知ろう」	平成29年 3 月25日（土）	医学部

保健学部 看護学科看護養護教育学専攻母子看護学 幼児と保護者を対象とした性教育

指導教員名 佐々木 裕子 鈴木 朋子 大屋 千鶴 学生代表者 石田 仁美（保健学部）

■ 概 要

平成28年8月25日（木）、15名の学生がメンバーとなっているボランティアグループ「いのちのおはなし会」が小金井市ひなぎく保育園を訪問して、4歳・5歳児クラスの園児を対象に、命の始まり（受精）から胎児の発育～出産までの様子を胎児人形と学生の寸劇によって説明した。また、パネルを使って男女のこどもの身体の違いを示し、プライベートゾーンを自分で守ることを説明した。

■ ねらい

保護者が幼児に的確かつ効果的に性教育を行えるように支援することが目的。子どもたちには命の大切さと、自分の身体は自分だけの大切なもので、自分で守らなければいけないということを理解してもらえればと願っている。

■ 成 果

子どもたちはとても興味を持ってくれ、保護者も幼児に命の大切さや自分の体を守る話が必要であることを理解してくれた。保健や看護を学ぶ学生にとって、幼児と直接触れ合い、保護者の生の声にふれる、貴重な体験となった。



パネルシアターの様子



胎児人形のだっこ体験

保健学部 看護学科看護養護教育学専攻 成人老年看護学研究室 「私の案内書作り」講座

指導教員名 兎澤 恵子 渡辺 洋子 古谷 麻実子 学生代表者 安藤 有佳（保健学部）

■ 概 要

平成28年9月7日（水）、14日（水）、21日（水）、三鷹ネットワーク大学を会場に3週間連続の通し受講により、「私の案内書作り」講座を開催した。第1回目はなぜ「私の案内書」を書くのか、第2回目は万が一のために書き残しておきたい自分の大切なことは何か、第3回目は今後自分がどんなふうに過ごしたいかについて、各自が再認識、再発見したことを整理しながら作成する作業を行った。第2回目では、講義に加えて学生がグループワークを実施した。

■ ねらい

将来の生活全般に漠然とした不安を感じている高齢者の「今のうちに何か準備できることはないか」という声に応えるための方法として考案した「私の案内書作り」を、講座を通して市民に役立てていただくことが目的。

■ 成 果

受講者からは、自分の良さや強みを再発見、再確認でき、心の整理の大切さも分かり、今後どうしたらよいのかということに向き合えるようになったというような声を多く聞くことができたので、本講座の意義はあったと考えている。



私の案内書作り講座

教育分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）

No.	行 事 名	実 施 期 間	活 動 主 体
1	財団法人慈生会野村病院 倫理委員会	通 年	保健学部
2	大学コンソーシアム単位互換制度へ科目提供	平成28年 4月～ 7月	総合政策学部
		平成28年 9月～ 平成29年 1月	
3	北多摩南部ICTネットワーク	平成28年 5月19日（木）	医学部・医学部附属病院
		平成28年11月 8日（火）	
4	三鷹・武蔵野地区リハビリテーション連絡会 合同研修会	平成28年 6月11日（土）	保健学部・医学部附属病院
		平成28年11月15日（火）	
		平成29年 2月10日（金）	
5	看護師・コメディカルのための第17回FIM講習会	平成28年 7月31日（日）	医学部・保健学部
6	看護師・コメディカルのための第18回FIM講習会	平成28年 8月21日（日）	医学部・保健学部
7	「夏！体験ボランティア2016inみたか」 杏林大学病院での高校生ボランティアの受け入れ	平成28年 8月22日（月） ～ 26日（金）	医学部附属病院
8	羽村日本語学習会との交流〈スタッフ講習会〉	平成28年 8月27日（土）	外国語学部
9	羽村市講演「正常発達」 ～発達障害児の支援に向けて～	平成28年 9月 2日（金）	保健学部
10	八王子学園八王子中学生対象の健康教育・保健指導 （命の教育、性理解）	平成28年11月 9日（水）	保健学部
11	八王子市平岡町健幸教室体力測定	平成28年11月12日（土）	保健学部
12	羽村市民、専門職、施設職員対象 子どもから高齢者までの障害に関する講演	平成28年11月30日（水）	保健学部
13	看護師・コメディカルのための第20回FIM講習会	平成28年12月11日（日）	医学部・保健学部
14	平成28年度三鷹市医師会産業医学講習会・ 第46回日本産業精神保健学会研修セミナー	平成28年12月17日（土）	医学部
15	立川市役所生活福祉課職員対象 「精神障害者への接遇、かかわり方」	平成29年 1月18日（水）	保健学部
16	三鷹市体育協会 平成28年度三鷹市スポーツ指導員 一般教養研修会	平成29年 2月19日（日）	保健学部
17	財団法人慈生会野村病院 医療倫理研修における講演	平成29年 3月 3日（金）	保健学部

総合政策学部 北島ゼミナール

HIV感染予防に関する情報提供

指導教員名 北島 勉 学生代表者 今井 花奈（総合政策学部）

■ 概 要

平成28年5月8日（日）、JR八王子駅前のユーロードで開催された学生天国において、八王子市保健所の保健師と一緒にHIV/AIDSについてのクイズ、恋愛シミュレーション、コンドームの装着練習、HIV/AIDSに関する現状を示したポスターの展示を実施した。

■ ねらい

HIV/AIDSに関する正しい知識を提供することにより、より多くの人にHIV/AIDSに関する理解を深めてもらうことが目的。

■ 成 果

昨年よりも多くの来場者があった。学生だけではなく、一般の方々も、積極的にクイズに答えたり、恋愛シミュレーションに参加してくれた。約半日ではあったが、多くの学生や一般の方々にHIV/AIDSに関する情報を伝えることができた。



学生天国での活動風景

外国語学部 志村良浩ゼミナール

JR東日本八王子支社・八王子市役所との連携による「駅からハイキング」プログラムの作成・実施

指導教員名 志村 良浩 学生代表者 加藤 佑紀（外国語学部）

■ 概 要

JR東日本の「学生が考えた『駅からハイキング』」のプログラムとして企画・立案した、JR東日本・八王子駅～都立小宮公園～道の駅八王子滝山～滝山城址公園～JR東日本・八王子駅というコースのハイキングを実施した。

平成28年4月1日（金）にJR東日本八王子支社、八王子市役所産業振興部観光課、八王子観光協会、志村ゼミナール学生による実施に向けた最終打ち合わせが行われ、4月5日（火）～10日（日）の6日間にわたって実施された。志村ゼミナールの学生26名が参加した。



JR 八王子駅南口のハイキング受付の様子

■ ねらい

JR東日本の要望・条件、八王子市の要望や現在の観光振興活動の実態を把握した上で、学生ならではの視点で作り上げたハイキングコースの実施により、地域交流に貢献すること。

■ 成 果

一般参加者が6日間で1,518名にのぼり、好評を得ることができた。「学生が企画して受付から同行までしてくれるのが珍しくて楽しかった」という声も聞かれた。

地域活性化分野での地域交流活動

外国語学部 志村良浩ゼミナール

JR東日本八王子支社・みたか都市観光協会との連携による「駅からハイキング」プログラムの作成・実施

指導教員名 志村 良浩 学生代表者 小野寺 たゆ（外国語学部）

■ 概 要

「学生が考えた『駅からハイキング』」のプログラムとして、JR東日本・三鷹駅～太宰治文学サロン～深大寺～神代植物公園～杏林大学～山本有三記念館～JR東日本・三鷹駅というコースを企画し、平成29年2月14日（火）～19日（日）に実施した。

前年7月からJR東日本関係者と打ち合わせを重ね、ルート候補地の実地調査をくり返して9月にコースを確定した後、みたか都市観光協会を通じて地元商店への共催を呼びかけたり、マップの作成・校正や学生ならではのおもてなしとして手作りの葉を作成するなど準備をすすめてきた。このプログラムには志村ゼミナールの学生11名が参加した。

■ ねらい

学生ならではの視点でJR東日本・三鷹駅を起点として多くの人に楽しんでもらえるハイキングコースを作り、地域交流を促進すること。

■ 成 果

東京都内のみならず近隣他県からも多くの一般参加者があり、その数は6日間で1,956名にのぼり、地域交流を一層深めることができた。コース上に井の頭キャンパスを組み込むことにより、大学のプレゼンスの向上にも貢献した。



受付の風景

外国語学部 観光交流文化学科 宇佐美ゼミナール

鎌倉浄智寺写真供養感謝祭の企画・運営

指導教員名 宇佐美 貴浩 学生代表者 鈴木 沙弥（外国語学部）

■ 概 要

平成28年11月12日（土）、宇佐美ゼミナールの3年生15名が北鎌倉浄智寺にて開催された「写真供養感謝祭」に参加した。この感謝祭は、鎌倉瑞泉寺で17年間続けられてきたものだが、平成26年より北鎌倉浄智寺に場所を移し、鎌倉の観光イベントとして定着させることにより、地域活性化を促進させようというプロジェクトが進められている。

宇佐美ゼミナールは、当該イベントにおいて企業への協賛依頼、現地自治体との調整、ポスターやSNSによる広報活動、参加者への対応など、企画・運営全般に携わった。

■ ねらい

当該プロジェクトは、一人ひとりの人生を語る思い出深き写真に感謝の気持ちを込め、供養することによって、新しい人生へと歩み出す手助けをする取り組みである。

学生には、地域振興に関するプロジェクトの実現過程を体験するとともに、地域の人と文化と産業が共生していくことの大切さを実感してもらいたい。

■ 成 果

普段のキャンパスとは違う現場での学びや地域自治体・企業及び地域の人々との交流は、参加した学生には貴重な体験となった。また、外国語学部観光交流文化学科の存在を知らしめ、地域活性化に関する活動に貢献していることをPRすることができた。



写真供養感謝祭

高齢者・障がい児者の音楽療法を基とした地域活動

指導教員名 加藤 英世 学生代表者 東原口 利也（総合政策学部）

■ 概 要

平成28年10月22日（土）、神奈川県厚木市にある「医療法人弘徳会 愛光病院」において演奏活動を行った。精神科患者様（入院・外来）および近隣住民、約100名の方に対して、単に音楽を聴いてもらうだけではなく、音楽療法を基本に歌唱、楽器演奏（カステネット、鈴など）で楽団の演奏に合わせて参加していただいた。

■ ねらい

保健学部母子保健学研究室学生、卒業生と杏林大学吹奏楽団は、「心に届く音楽」をモットーに、音楽を通して年齢・地域の壁を越えた多くの方々と交流を図ることを目的としている。今回は、患者のみなさんにも演奏に加わっていただくことにより、一緒に音楽を楽しむことを目指した。

■ 成 果

一緒に楽しんでもらえるか、学生に不安感がみられたが、入退場の際や曲の前後には拍手があったり、演奏中にも手拍子をし、曲に合わせて歌って、学生に患者さんが楽しんでいただいていることが伝わって来た。

患者のみなさんとの間に無意識のうちに築いていた壁もすっかり取り払われ、学生は楽器を演奏することや、その演奏を人に聴いてもらうことの喜びを再確認できた。また、医療学部、特に作業療法士を目指す学生にとっては貴重な体験となった。



演奏活動の風景

青梅市御岳山外国人誘致プロジェクト「天空芸者ナイト」

指導教員名 高木 眞佐子 学生代表者 熊田 奈留美（外国語学部）

■ 概 要

平成28年10月20日（木）、11月10日（木）の両日、八王子芸者にご協力いただきながら、芸者の伝統の踊りや遊びを通訳を交えつつ紹介する地域振興型プロジェクト「天空芸者ナイト」を実施。

「天空芸者ナイト」は二部構成となっており、第一部では御岳山特設ステージで芸者の踊りや所作の英語による紹介を行った。第二部では宿坊座敷での配膳や片付け、アンケートによる満足度調査を実施した。

■ ねらい

御岳山という江戸時代から続く集落へ外国人観光客を誘致するのが目的。

■ 成 果

例年にも増して盛況だったことが、大きな成果の1つ。学生にとっての最大の収穫は、みたけ山観光協会の馬場喜彦会長から、御岳山を観光地化するに当たっての苦労をうかがえたこと

だった。学生は、行政がすることと現場のニーズには不一致があることや、それでも地域を愛し、集落を守って平和に暮らしたいという馬場喜彦会長の心情に強く心を打たれた様子だった。



御岳山特設ステージでの活動

保健学部 花と写真とスポーツで盛り上げ隊

三鷹における地域活性化活動を通じた実践教育

指導教員名 楠田 美奈 学生代表者 福島 妙恵華（保健学部）

1. 華道部による「生け花の実演と展示」

平成28年12月28日（水）、三鷹駅改札内を会場に、15～16時と18時～19時の2回、杏林大学華道部が生け花の実演を行った。これは株式会社アトレとの連携事業の一環として行われたものだが、9月にアトレヴィ三鷹に企画案を提出してから何度もプレゼンを行い、創作を重ねてやっと実現の運びに至ったものである。（写真①、②）

保健学部11名、外国学部1名、計12名の学生が参加し、「2017年 正月」をテーマに生け花に挑んだ。そして実演作品は、平成29年1月3日（火）まで三鷹駅改札内の2つの場所に展示された。

師走の忙しさの中で、生け花の実演と作品を見ていただくことにより、ゆったりとした一時を過ごしてもらおうと同時に、来るべき新年に花を添えることが目的。

当日は、「華道は若い頃にやっていた」と懐かしむ高齢者から興味津々に見ている子どもたちまで、老若男女を問わず、見学者が絶えなかった。学生は、「多くの人に見られながらの作品制作だったので、とても緊張したが、やりがいがあった」と語っていた。杏林大学華道部とその活動の一端を知ってもらう機会にもなった。



① 新旧部長による花の競演



② 生け花の実演

2. アトレヴィ三鷹×バレーボールサークル=交流試合

12月27日（火）18：00から三鷹市第一体育館において、チームみたか【三鷹駅、株式会社紀ノ國屋、株式会社JR東日本商事、株式会社アトレ（アトレヴィ三鷹）】とバレーボールサークルによる「年忘れ対抗試合」を開催。18：20～試合開始、9人制で2試合対戦した。観客も含め総勢約40名が参加し、エネルギー溢れるコミュニケーションのパスを交わしながら楽しいひと時を共有した。（写真③）

3. アトレヴィ三鷹と写真部の協働企画

株式会社アトレ（アトレヴィ三鷹）と写真部の協働企画による写真の展覧会に向け平成29年3月から写真の撮影会を実施した。テーマは「中央線ぶらり途中下車の旅」。東京駅を起点に甲府までの中央線沿いの各駅で撮影会を展開。この企画に保健学部、総合政策学部、外国語学部の学生15名が参加した。アトレヴィ三鷹から提供して頂いた段ボール等を使用したオリジナルのディスプレイも制作予定で、5月に三鷹駅改札内4F「陽だまりバルコニー」に於いて開催予定である。（写真④）



③ アトレヴィ三鷹×バレーボールサークル=交流試合



④ 写真部の撮影会の1枚

指導教員名 八木橋 宏勇 内藤 高雄 進邦 徹夫 古本 泰之 井上 晶子 学生代表者 大見 依里佳 (外国語学部)

1. はじめてのお店屋さん

平成29年1月28日(土)、外国語学部の学生が企画した「はじめてのおみせやさん」がアトレヴィ三鷹にて開催された。この活動はアトレヴィ三鷹、(株)紀ノ國屋、本学の連携事業の一環として行われたもので、三鷹市と武蔵野市を中心に募集した小学生11名と外国語学部の学生7名が参加した。(写真①)

午前中は紀ノ國屋フードセンターで「HAPPY」をテーマにアイシングクッキー作りを体験し、午後はアトレヴィ三鷹の改札内3Fにある「KINOKUNIYA Bakery」でアイシングクッキーの販売とコンテストを行った。(写真②)



① はじめてのお店屋さん



② コンテストの授賞式



③ あしなが育英会寄付金贈呈式

学生は子どもたちへのさまざまなアドバイスやフォローをしながらイベントを全面的に支えた。

「ものを創ることと、ものを売ること」の「楽しさ大変さ」を子どもたちに体験してもらい、未来につながる思い出づくりをしてもらうのが目的。

イベントは好評で、学生も自分たちの企画を実現できたので達成感と自信を得ることができた。また、売上金の51,500円はアトレヴィ三鷹、(株)紀ノ國屋、本学の3者合同で「あしなが育英会」に寄付させてもらった。(写真③)

2. アトレヴィ三鷹とコラボしてガイドブック「みたから」を発行

総合政策学部の学生5人が、アトレヴィ三鷹と協働で現地調査を行い三鷹地域のガイドブック「みたから」を作成。(写真④)

ガイドブック「みたから」は、協働事業の第1弾として発行された。「みたから」は、手にとったサイズが縦297ミリ×横100ミリで、蛇腹折を広げると横幅は600ミリの大きさで、地域で活躍する方や話題の店を学生が取材する連載コーナーや市内を巡るウォークラリーなど地域のイベントのほか、アトレヴィ三鷹のフロアガイドも付いている情報満載のガイドブックである。(写真⑤)



④ 「みたから」を作成するための現地調査



⑤ アトレヴィ三鷹とコラボして発行したガイドブック「みたから」

3. アトレヴィ三鷹との協働事業 『新酒ワインを楽しむタベ』を開催

総合政策学部の内藤教授とアトレヴィ三鷹が協働で企画した「新酒ワインを楽しむプロジェクト」が、アトレヴィ三鷹1Fの改札外北口にある「キノクニヤ アントレ」「キノクニヤ ヴィノキッチン」にて開催された。(写真⑥)

第1回目の11月7日(月)は『山梨ヌーボーフェスタ』～日本の誇り「甲州ワイン」と「甲州料理」のマリアージュ～。蒼龍葡萄酒(株)のワインソムリエの素敵なお話を聞きながら、すっきりさわやかで上品な甲州ワインと美味しい甲州料理を参加者のみなさんに提供した。また、華道部有志による生け花が会場に彩りを添えていた。(写真⑦)



⑥ アトレヴィ三鷹との協働事業
『新酒ワインを楽しむタベ』



⑦ 華道部有志が生け花で
ワインフェアに彩りを添えた

4. 「ちょい呑み」メニューを 学生が企画して開催！

2月1日(水)～2ヵ月間、アトレヴィ三鷹5F そば処 善左衛門において、保健学部の北林蒔子准教授監修による、体に良くおいしい東北の高級食材「じゅんさい」をチョイスしたメニュー作り、外国語学部の学生が協力した。(写真⑧)

『東北・三種町じゅんさい フェア』と銘打ち、東北の美味しいお酒と一緒に「新メニュー」を作成。“じゅんさい”は、ソルツとした食感・喉ごしが特徴の水草の一種で、食物繊維(特にムチンが特徴)・ポリフェノールなど身体を健康にする成分が豊富に含まれている。(写真⑨)



⑧ じゅんさい企画の検討中



⑨ じゅんさいメニュー

外国語学部 古本泰之ゼミナール

八王子市内での地域イベントの活性化活動を通じたイベント教育

指導教員名 古本 泰之 学生代表者 平山 将成 (外国語学部)

八王子市横山町周辺「ユーロード」にて、年2回実施される「八王子古本まつり」に、ゼミナールの学生4年生が運営団体である「八王子古本まつり実行委員会」と共同で取り組むことを通じて、イベントの活性化活動に取り組んだ。

八王子古本まつりは、2009年より年2回、八王子市横山町周辺「ユーロード」にて行われる古本市である。

このイベントは、単なる古書販売だけではなく、著名人による講演会や中町公園での特別企画、地元・八王子の店舗が露店を並べる「まちみせ横丁」、地元福祉団体による手仕事市「ゆるゆるパーク」なども併せて行う、総合的な文化イベントである。

このイベントの運営を担う「八王子古本まつり実行委員会」に古本ゼミナールに所属する4年生が参加、事前準備・当日運営・改善提案を行った。具体的には、実行委員会に複数回参加して全体運営に関する提言を行った上で、5月・10月の実施期間中に八王子のまちづくりに関するアンケート調査(実行委員会との協議を踏まえ作成したもの)ならびに福引きコーナーの運営

補助に取り組んだ。また今年度は、新たに多摩美術大学との連携による「絵本取り替えコーナー」の設置運営を行い、地元住民との交流の場を設ける活動を行った。イベント終了後実施の反省会において、取り組み全体の総括を行った。

これらの活動を通じて、地域振興に関する学内での学びをさらに深めるとともに、八王子市の地域活性化に貢献することができた。また、地元のイベントに主体的に参加することができた。



八王子のまちづくりに関するアンケート調査の様子

地域活性化分野でのその他の主な地域交流活動（一部掲載）

No.	行 事 名	実 施 期 間	活 動 主 体
1	高齢者・障がい者の生きがい創出 （老人ホームや病院等での活動） （地域イベントへの協力）	平成28年 4月16日（土）	保健学部
		平成28年 5月21日（土）	
		平成28年 6月18日（土）	
		平成28年 7月 9日（土）、16日（土）、 17日（日）	
		平成28年 9月17日（土）、18日（日）	
		平成28年10月15日（土） 平成28年11月 3日（木）、19日（土）	
		平成28年12月24日（土）	
2	三鷹市医師会理事会、病院委員会	平成28年 4月～ 平成29年 3月（月 2回）	医学部・医学部附属病院
3	Tama Outpatients and Home-care Wound care meeting TOWN ミーティング	平成28年 4月～ 平成29年 3月（3回実施）	医学部・医学部附属病院
4	三鷹市民公開講座「腎臓について考えるフォーラム」	平成28年 5月14日（土）	医学部・医学部附属病院
5	第 7 回 リウマチ膠原病教室	平成28年 8月 4日（木）	医学部・医学部附属病院
6	東日本大震災被災地交流支援活動 （宮城県気仙沼市での活動）	平成28年 8月 9日（火）～12日（金）	保健学部
7	杏林大学医学部附属病院と 三鷹市老人クラブ連合会との合同行事 健康長寿講演会	平成28年 9月10日（土） 平成29年 2月 7日（火）	医学部・医学部附属病院
8	「東京弘済園まつり」ボランティア	平成28年11月 3日（木）	保健学部
9	第 4 回 南多摩福祉機器展 南多摩医療と介護と地域をつなぐ会 第12回フォーラム	平成28年11月19日（土）～20日（日）	保健学部
10	三鷹市西部地域ケアネットワークにしみたか学習会	平成28年11月30日（水）	保健学部
11	三鷹市地域包括ケアセンター学習会	平成28年12月 4日（日）	保健学部
12	第32回 女と男、ともに織りなすフォーラムinはむら メインイベント「あなたの人生、充実していますか ～職場・家庭・地域でアクティブに生きるために～」	平成29年 2月 5日（日）	医学部
13	Tama Limb Salvage and Wound Care Nursing Network: L-SWANN	平成29年 2月25日（土）	医学部・医学部附属病院
14	三鷹市リハビリテーション協議会 介護予防フォーラム	平成29年 3月25日（土）	保健学部

その他の分野での地域交流活動

外国語学部

秋田県湯沢市・秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動に参加

指導教員名 古本 泰之 学生代表者 蛭谷 真梨奈 (外国語学部)
井手 拓郎 齋藤 七瀬 (外国語学部)

■ 概 要

秋田県湯沢市「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」と本学外国語学部では、協働で観光まちづくりの活動に取り組んでおり、平成24年には「まちづくり・観光事業に関する連携協定」を締結した。これらの活動の一環として、本年度は以下の2つの「フィールドスタディ」（外国語学部科目）に取り組んだ。

観光振興に関する現地調査と意見交換

(平成28年8月9日(火)～12日(金)・学生10名参加)

湯沢地域において新たな観光資源として注目を集めている「ジオパーク」や、秋田県立雄勝高等学校生徒との協同でのイベント補助・グリーンツーリズム体験などを行い、湯沢地域の観光の現状を把握したうえで、最終日に関係団体および帝京大学学生との意見交換会を実施し、湯沢地域の観光振興への提言を行った。

第19回かだる雪まつりへの参加

(平成29年2月2日(木)～6日(月)・学生8名参加)

かだる雪まつりは秋の宮温泉郷で行われるイベントであり、本学学生の参加は今回で9回目となる。例年同様、秋の宮温泉

郷の皆さま、秋田県立雄勝高等学校生徒や県内外からの家族連れとの積極的な交流を行った。その中で学生は、雪まつりの会場づくりから当日の実施運営、片づけまでをスタッフとして関わり、約3,000個のミニかまくらに明かりを灯し、会場を盛り上げることができた。

■ ねらい

秋の宮温泉郷との連携を推し進め、イベントの運営支援に携わりながら、交流を図ることにより、地域と本学の双方が、お互いを高め合う関係を続けていく。同時に現地との交流を通じて観光による地域振興活動を学ぶ。

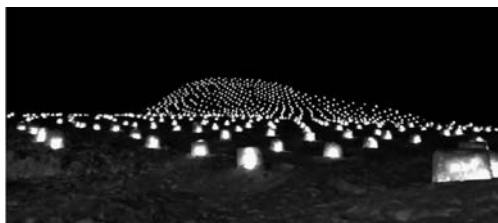
■ 成 果

秋の宮温泉郷地域にとっては、今回を含め、これまで続けてきた本学との連携事業を通じて、地元価値の再評価を促す機会の一つとなっている。

学生にとっては、キャンパスとは違う現場での学びや、地域住民・高校生・自治体・観光団体の方々との交流は、コミュニケーション力や問題発見・解決力の向上、また、新しいことへチャレンジする勇気を養うことができた。



意見交換会



秋の宮温泉郷の皆さまと作ったミニかまくら



現地の方とミニかまくらづくり

その他の主な地域交流活動（一部掲載）

No.	行 事 名	実 施 期 間	活 動 主 体
1	三鷹市使用料等審議会委員	通年	医学部
2	パウロニア・二台ピアノと管弦楽の午後	平成28年5月22日(日)	保健学部
3	三鷹キャンサーネット	平成28年6月22日(水) 11月10日(木) 平成29年3月24日(金)	医学部・医学部附属病院
4	立川管弦楽団第70回定期演奏会	平成28年6月26日(日)	保健学部
5	TAMA21交響楽団第23回定期演奏会	平成28年10月2日(日)	保健学部
6	宿坊・売店で必要な英会話はこれだ！ ピンポイント英会話in御岳山	平成28年10月20日(木)	外国語学部
7	石巻市の歴史についての漫画を中国語に翻訳	平成28年10月～12月	外国語学部
8	調布フィルハーモニー管弦楽団創立35周年記念演奏会	平成28年12月11日(日)	保健学部

本学と三鷹市・羽村市・八王子市との連携

三鷹市 地域活性に向けた協働事業など

羽村市 日本語学習支援、防災「共助」指導など

八王子市 外国人観光客誘客に向けたサービス開発など

本学は東京都羽村市と三鷹市において、相互の資源および研究成果等の交流を促進することによる活力ある地域社会の創造や人材育成などを目的として、前者とは平成22年6月に、後者とは平成25年9月に包括的な連携に関する協定を締結した。この包括連携協定は教育、生涯学習、まちづくり、地域の産業・文化の振興、健康・福祉等の分野において連携し協力していくものである。また、八王子地域は25の大学・短大・高専がある学園都市であり、本学は平成21年4月から大学コンソーシアム八王子に加盟し、生涯学習の推進や情報の発信、学生と市民との交流、外国人留学生の支援などの事業に取り組んでいる。

三鷹市

平成28年度は(株)アトレとの地域貢献パートナーに関する協定を8月に締結したことを機に、後半からアトレヴィ三鷹と多くの協働事業が始まった。総合政策学部、外国語学部、保健学部の教員・学生が継続的に推進しているプロジェクトは、食・情報・駅などをテーマに10の活動を進めた。また、市との連携も深まりつつあり、教育委員会を通じたみたか地域未来塾への学習支援員の派遣も順調に進んだ。



株式会社アトレとの締結式

平成28年度ボランティア参加一覧（一部掲載）

No.	活動名称	日時	学部
1	三鷹国際交流ウォークラリー 2016	平成28年5月15日（日）	外国語学部
2	「プレイパーク（三鷹市の公園で子どもと自然遊び）」 三鷹市都市整備部緑と公園課	平成28年6月26日（日）	保健学部
3	こどもたちの居場所づくり「虹色キッズクラブ」 三鷹市立第六小学校	平成28年7月1日（金）、8日（金）、 13日（水）、15日（金）	保健学部
4	「救命講習指導」法政大学中学高等学校	平成28年7月7日（木）	保健学部
5	第39回三鷹商工祭り	平成28年7月17日（日）	保健学部・総合政策学部 外国語学部
6	三鷹産業プラザまるごと夏まつり2016	平成28年7月30日（土）、31日（日）	外国語学部
7	「夏！体験ボランティアinみたか」 三鷹市社会福祉協議会	平成28年8月4日（木）、8日（月）、 12日（金）、15日（月）、 27日（土）	総合政策学部・保健学部
8	第27回三鷹国際交流フェスティバル	平成28年9月25日（日）	保健学部・総合政策学部 外国語学部
9	井の頭100祭	平成28年10月22日（土）、23日（日）	保健学部・総合政策学部 外国語学部
10	第7回三鷹コミュニティシネマ映画祭	平成28年11月19日（土）、20日（日）、 23日（水）	外国語学部
11	第25回三鷹市市民駅伝大会	平成28年11月20日（日）	保健学部・外国語学部
12	心のバリアフリー推進イベント	平成28年12月4日（日）	保健学部
13	多摩CBシンポジウム 「まちを元気にするプロデュース力を学ぶ」 第8回（井の頭キャンパス）	平成29年2月26日（日）	外国語学部
14	社会言語科学会開催（井の頭キャンパス）	平成29年3月18日（土）、19日（日）	外国語学部

羽村市

平成28年度は42件の事業で連携した。羽村日本語学習会での初級クラスの授業のサポート、羽村市の商店街の活性化を目指す、第3回羽村にぎわい音楽祭実行委員会、青梅・羽村ピースメッセンジャー、地域教育シンポジウムなど、教育的な地域貢献を展開した。また、防災における「共助」の力を育む羽村市立中学生を対象としたBLS（一次救命措置）の指導は継続して実施した。



羽村日本語学習会で授業をサポート

平成28年度ボランティア参加一覧（一部掲載）

No.	活動名称	日時	学部
1	羽村にぎわい音楽祭2017 実行委員	毎月1回程度	外国語学部
2	羽村市ゆとろぎ 協働事業運営市民の会	平成28年4月～9月	外国語学部
3	羽村日本語学習会における日本語学習支援	平成28年6月～平成29年3月	外国語学部
4	羽村市内の3つの中学校に対するBLS指導	平成28年6月10日（金）	保健学部
5	羽村市商店街活性化事業	平成28年6月18日（土）	総合政策学部・外国語学部
6	青梅・羽村ピースメッセンジャー	平成28年7月1日（金）～8月14日（日）	保健学部・外国語学部
7	はむら夏まつり	平成28年7月30日（土）31日（日）	外国語学部
8	「地域教育シンポジウム」羽村市教育委員会	平成28年7月～平成29年1月21日（土）	総合政策学部・外国語学部
9	「にぎわい音楽祭実行委員会」羽村市商店街活性化事業	平成28年8月2日（火）	外国語学部・総合政策学部
10	地域教育シンポジウム	平成29年1月21日（土）	総合政策学部

八王子市

平成28年度にはJR東日本八王子支社と連携し、諸外国人の多摩エリアへの誘客を目指して新しいサービスの開発に取り組んだ。大学コンソーシアム八王子の事業には継続的に参画し、全関東八王子夢街道駅伝競走や平岡町での健幸教室と体力測定会など、多くの活動にボランティアとして学生が参加して、地域と大学間の連携を前進させた。



JR東日本八王子支社との連携

平成28年度ボランティア参加一覧（一部掲載）

No.	活動名称	日時	学部
1	「保健室ボランティア」八王子市立宇津木台小学校	通年	保健学部
2	第11回学生天国（八王子地域同学園祭）実行委員	平成28年4月24日（日）～8月25日（木）	総合政策学部
	第11回学生天国（八王子地域同学園祭）	平成28年5月8日（日）	
3	「八王子まつり山車曳き体験」大学コンソーシアム八王子留学生支援事業	平成28年8月6日（土）	外国語学部
4	「留学生対策ワーキング」大学コンソーシアム八王子	平成28年10月13日（木）	外国語学部
5	平岡町健幸教室体力測定会	平成28年11月12日（土）	保健学部
6	南多摩地域リハビリテーションフォーラム2016	平成28年11月19日（土）20日（日）	保健学部
7	第67回全関東八王子夢街道駅伝競争大会	平成29年2月12日（日）	保健学部

新聞記事・メディア紹介

■平成28年 6月30日(木) 毎日新聞

2016 参院選

参院選を前に模擬投票を行う大田区立三軒松小学校の児童と教員ら

「選挙に関心をもつ」
杏林大模範校
参院選 選挙権年齢が18歳以上に引き上げられたことを受け、杏林大が「選挙に関心をもつ」をテーマに、大田区立三軒松小学校(三軒松小)と連携し、参院選を前に模擬投票を行った。三軒松小の児童と教員ら、杏林大の学生と教員らが参加した。三軒松小の児童は、参院選の仕組みや、投票の仕方について、杏林大の学生から説明を受けた。児童らは、模擬投票のやりかたを学び、実際に投票箱に投票した。杏林大の学生は、児童らの疑問に答え、選挙の重要性について説明した。この活動を通じて、児童らは選挙に関心をもつきっかけとなった。杏林大の学生は、地域社会への貢献の一環として、このような活動を行っている。

■平成28年10月14日(金) 日本経済新聞

杏林大と訪日客調査 JR東、ニーズ把握へ連携

東日本旅客鉄道(JR東)と杏林大学が、訪日客のニーズを把握するため、連携して調査を行う。調査は、JR東の駅構内や、杏林大学のキャンパスで行われる。調査の結果は、両機関が共有し、今後のサービス向上に活用される。杏林大学は、訪日客のニーズを把握し、国際交流活動の充実を図る。JR東は、訪日客のニーズを把握し、サービスの向上を図る。この連携は、両機関の協力による成果である。

■平成28年 8月22日(月) 東京新聞

いのちのおはなし会

サークル編

「命って」幼児に易しく伝える

「いのちのおはなし会」は、杏林大学の学生が、幼児に「いのち」について伝えるための活動。活動は、絵画や、人形劇などを通じて行われる。杏林大学の学生は、幼児の理解力に合わせて、わかりやすい言葉で「いのち」について説明する。幼児は、活動を通じて「いのち」の大切さを学ぶ。この活動は、杏林大学の国際交流活動の一環として行われている。

■平成28年10月19日(水) 読売新聞

多摩の留学生 就活の本音

多摩地区の留学生が、就職活動の本音を語る。留学生は、日本の就職活動について、多くの疑問を抱えている。彼らは、日本の就職活動の仕組みや、企業との接点について、知りたいと思っている。読売新聞は、留学生の就活の本音を調査し、その結果を発表した。調査の結果、留学生は、日本の就職活動について、多くの疑問を抱えていることがわかった。読売新聞は、留学生の就活をサポートするために、この調査結果を発表した。

■平成28年 5月24日(火)
J:COM 武蔵野・三鷹放映
「地域連携ワークショップ
開催」



■平成29年 2月20日(月)
J:COM 武蔵野・三鷹放映
アトレヴィ三鷹と杏林の
協働事業
「はじめてのお店屋さん」



■平成29年 3月23日(木)
J:COM 武蔵野・三鷹放映
「生きがいくりコーディネーター養成講座修了式」



ログイン

IDでもっと便利に [新規登録]

「終の住処」どこに? 「日本版 CCRC」と移住高齢者の選択

5月13日(金)18時14分配信

「ごちゃ混ぜ」が生む高齢者の役割

杏林大学CCRC研究所の蒲生忍所長は、「ごちゃ混ぜ」という発想を「福祉の分野で実績がある佛子園ならでは」と評価する。CCRCの本家である米国はもちろん、日本でも珍しい試みだ。鈴木総七郎さん(73)は、神奈川県からここに移り住んだ。その「ごちゃ混ぜ」な暮らしとは……

日本版CCRCに未来を委ねられるか

シェア金沢の運営費は年間約4億円。半分以上を、行政からの社会福祉費でまかなう。障害者が暮らしやすくなる施設が多い分、社会福祉費も多額になる。残りの運営費は入居者の家賃や、外部からの施設利用客の支払いを充てている。社会福祉費とコミュニティが稼ぎ出す利益のふたつを確保することが、持続可能な経営の軸になっている。

一方で、杏林CCRC研究所の蒲生所長は「日本のCCRCは未知数だ」とも指摘する。たとえば契約社会であるアメリカでは、CCRCに入居する際に事細かな契約書を交わすのが一般的。認知症を発症した場合、寝たきりになった場合…など入居後に起こりうる変化を想定し、それぞれにどのようなサポートが受けられるかを書類に明記しておくのだ。日本のCCRCでは、現状そこまでの契約はないという。

またアメリカのCCRCは、運営開始からの長い年月のなかで入居者の年齢が自然にばらけてきた。CCRCの歴史が浅い日本では、ほとんどの入居者は同世代。いまは活発に仕事やボランティアをこなす入居者たちが、同タイミングで要介護になる可能性は否定できない。「運営していくなかで、制度が整っていくことを期待したい」と蒲生所長は展望する。

大学倶楽部・杏林大

他の産経記事はこちら

2016年9月28日

Texts by 杏林大

東京都

会員大学一覧

杏大

教育

株式会社アトレ

杏林大学

地域貢献パートナー協定 締結式

協定書を交わし握手をする井上高司取締役(左)と藤見裕学長

杏林大学は9月26日、駅ビル事業を手がけるJR東日本のグループ企業「アトレ」と、地域貢献パートナーに関する協定を締結した。今後、井の頭キャンパス(東京都三鷹市)の最寄り駅であるJR三鷹駅の商業ビル「アトレヴィ三鷹」を拠点に、総合政策学部、外国語学部、保健学部の教員と学生が、さまざまなプロジェクトに取り組んでいく。

今年4月、同キャンパス開設を機に、同ビルでのイベント開催を同社から依頼されたことがきっかけとなり、今回の協定が実現した。活動の第1弾として、同ビルのフロアガイドや地域のイベント情報を紹介する情報誌「みたら」を学生らが作製し、10月7日に発行される。また、11月7、21日には、同ビルのテナント「キノクニヤヴィノキッチン」で行われる新酒ワイン発売イベントを教員がプロデュースする。そのほか、食・情報・駅などをテーマに12のプロジェクトが進行中だ。

PR

地域交流活動報告書

59



杏林大学

文部科学省 「地（知）の拠点整備事業」平成25年度採択
新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点

平成28年度 地（知）の拠点整備事業 成果報告書
地域交流活動報告書

発行日 平成29年7月

編集発行 杏林大学 地域交流推進室

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

TEL：0422-47-8052 FAX：0422-47-8054

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/area2/>
